

嘉島町東部台地遺跡群

—Cエリアにおける調査概要報告—

2015

嘉島町教育委員会

嘉島町東部台地遺跡群

—C エリアにおける調査概要報告—

2015

嘉島町教育委員会

例言

1. 本書は、熊本県上益城郡嘉島町大字北甘木に所在する石塚遺跡の埋蔵文化財調査概要報告である。
2. 調査は、熊本都市計画事業嘉島東部台地土地区画整理事業に伴い、嘉島町教育委員会が行った。
3. 本書に所収している調査概要は、東部台地に所在する遺跡群のなかでCエリアとした石塚遺跡の一部である。
4. 本書に所収している石塚遺跡の発掘調査の記録保存業務は株式会社埋蔵文化財サポートシステム熊本支店に委託した。
5. 本書の編集・執筆は、中川裕二（嘉島町教育委員会社会教育課）、稲葉洋一（嘉島町教育委員会社会教育課嘱託職員）が行った。
6. 本書の作成業務は株式会社九州文化財研究所に委託した。

凡例

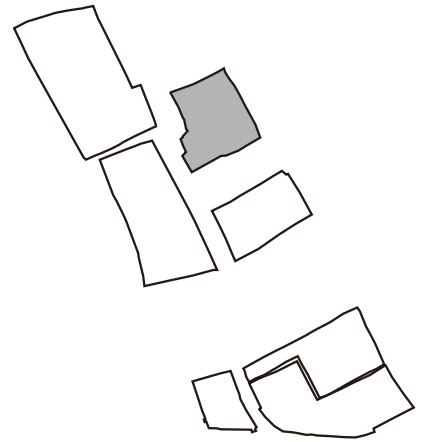
1. 本書に所収したCエリアは、石塚遺跡の西端部に位置する東部 8-1 区～ 8-4 区及び石塚 16 区～ 18 区の 7 調査区である。
2. 本書で概要を報告するのは、主にCエリアで出土した甕棺である。出土状況をしめす平面図および写真を掲載した。
3. 調査区に設定したグリッドは、50 m× 50 mの大グリッドを 10 m× 10 mの小グリッドに 25 分割している。グリッド名称は南北軸に南からアルファベットを付し、東西軸に西から数字を付し大グリッド名称として、北西隅から南東隅にかけて 1～ 25 の番号を付して小グリッド名称とした。
(例：L10-7 区)
4. 方位はすべて、公共座標Ⅱ系に基づく北をしめしている。
5. 公共座標は、日本測地系による数値を用いている。
6. 遺構番号は、調査区内の小グリッド毎に 1 号から連番号を付した。
7. 本書に関する記録と遺物は嘉島町教育委員会が保管している。



調査区全景 東部台地（北甘木台地）を南から北に向かって撮影



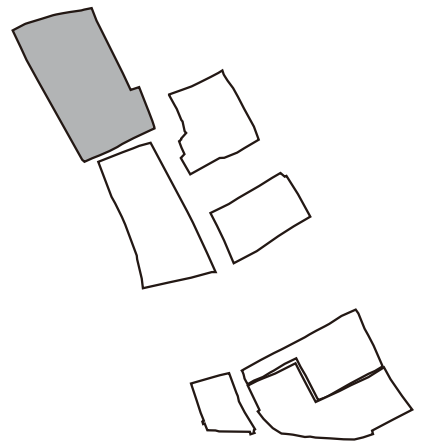
8-1 区 空中写真



調査面積 730 m²



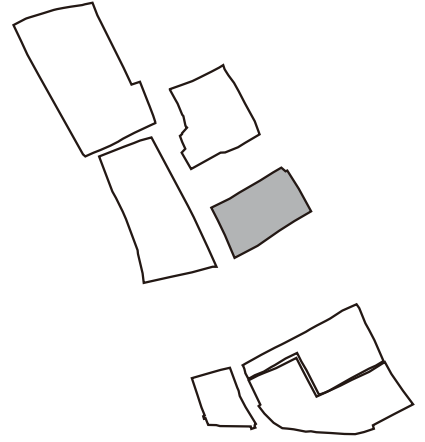
8-2 区 空中写真



調査面積 1100 m²



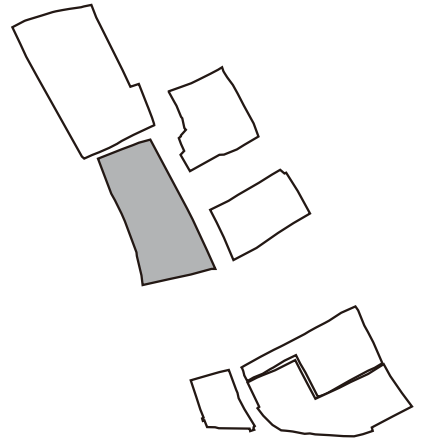
8-3区 空中写真



調査面積 747 m²



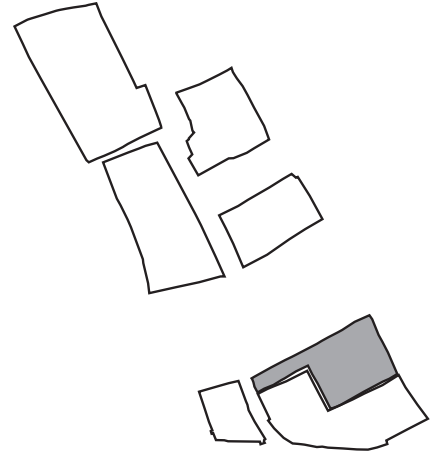
8-4区 空中写真



調査面積 1028 m²



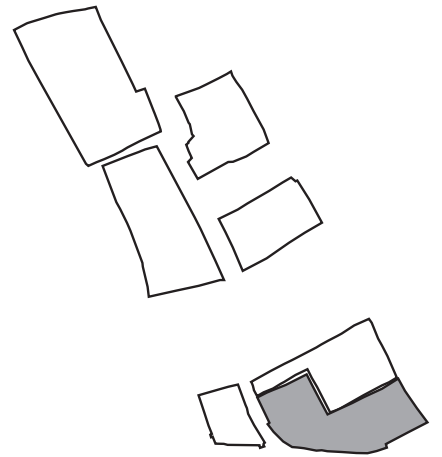
石塚 16 区 空中写真



調査面積 584 m²



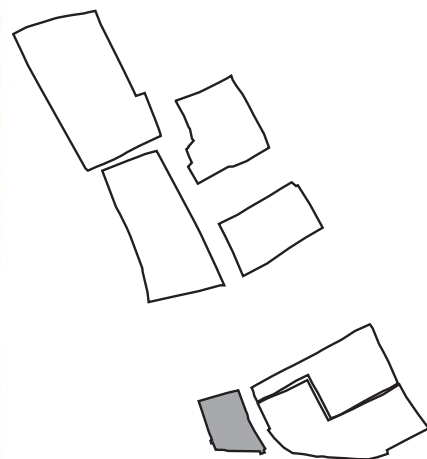
石塚 17 区 空中写真



調査面積 584 m²



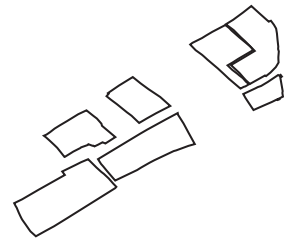
石塚 18 区 北側 空中写真



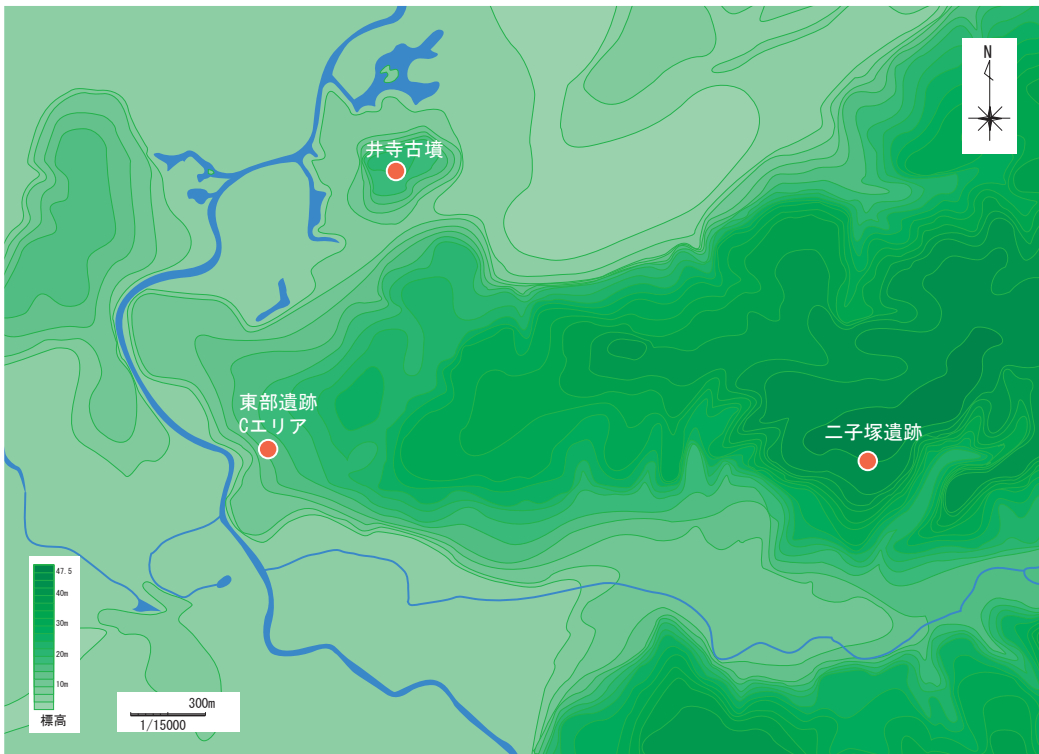
調査面積 239 m²



石塚 18 区 南側 空中写真



調査区を西側から望む
後方の山は飯田山



明治 34 年 大日本定刻陸地測量部より
東部台地（北甘木台地）旧地形図

嘉島町東部台地遺跡群

目次

例言

凡例

巻頭図版

第1章 東部台地の調査概要

1. 調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 調査の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
3. 調査の過程・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第2章 調査概要報告書

1. 遺跡の位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 2. 遺跡周辺の地形・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 3. 歴史的背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 4. 調査体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 5. 調査概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 北甘木台地(東部台地)周辺の空中写真・・・・・・・・・・ 6
- 調査区周辺遺跡分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 発掘調査位置図 縮尺 1/1000・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 東部台地遺跡群 Cエリアグリッド設定図・・・・・・・・・・ 9
- 東部 8-1 区 遺構平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 東部 8-2 区 遺構平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 東部 8-3 区 遺構平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 東部 8-4 区 遺構平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 石塚 16 区 遺構平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 石塚 17 区 遺構平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 石塚 18 区 遺構平面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- 遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- 甕棺埋納方向・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- 甕棺実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
- 石棺実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
- 埋甕実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47

写真図版・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48

報告書抄録

奥付

第1章 東部台地の調査概要

本書は、熊本都市計画事業嘉島東部台地土地区画整理事業に伴い、嘉島町大字北甘木および大字井寺で実施している埋蔵文化財調査の概要報告である。

1. 調査に至る経緯

嘉島町は、町の東部に位置する北甘木台地、井寺台地と称される東部台地が農業人口の減少や産業構造の変化に伴い、耕作放棄地が増加するなどさまざまな問題が生じ、土地の有効利用を模索してきた。

さまざまな方策が模索された結果、区画整理事業により台地を開発することとした。70haを超える東部台地を区画整理するためのさまざまな課題があるなかで、関係機関との協議を実施した。

熊本県教育庁文化課との協議で、事業予定地内の「周知の埋蔵文化財包蔵地」の所在把握を早急に行うべきであるとの指導をいただいた。

平成10年度に文化課のご協力を得て嘱託調査員を雇用して、事業予定地内で確認・試掘調査を実施した。

『熊本県遺跡地図』（熊本県教育委員会編）所収の遺跡については、確認調査を実施し、その他周辺地について試掘調査を実施し、事業予定地の約1/4にあたる18haの遺跡を文化課に報告して、善後策を協議した。

文化課と協議して、区画整理事業をたちあげるさまざまな準備作業と並行して、埋蔵文化財調査に着手することとした。

2. 調査の内容

調査区を設定するために、台地を包括するグリッドを設定した。

グリッドは、東西方向（X軸）に西から東に50m毎に数字を付した。南北方向（Y軸）に南から北に50m毎にアルファベットを付した。50m×50mを大グリッドとして数字とアルファベットを組合せて名称を付した。（例：L10区）

大グリッドを10m×10mの小グリッドに分割して西北隅から南東隅にかけて1～25の番号を付して小グリッド名称とした。（例：大グリッドL11区の北西隅=L11-1区・中央部=L11-13区・南東隅LN11-25区）

調査区は、基本的に畑1枚を単位として設定した。畑1枚の調査を行う場合、調査を行う畑Aの排土を隣接の畑Bに置き、畑Aの調査終了後に畑Bの排土を畑Aにおいて調査を行った。

平成12年度～14年度にかけての石塚遺跡の調査は、個別の調査区名を付していない。（整理時に仮1区～仮16区としたのちに東部1区～16区とした）

平成15年度から、〇〇遺跡第〇区という調査区名称を付した。調査は、設定した調査区（ほぼ畑に沿った形）の表土（現耕作土）をバックホーで除去して、測量杭を設置することからはじめた。測量杭は小グリッドを示すため10mのメッシュ状に設置した。

小グリッド毎に手掘りによって層位を下げた。表土除去後の1層目は遺物包含層で、遺構に伴わない遺物は一括遺物として取上げた。完形品などの遺物は地点（座標値）、レベル（標高）

を記録した。また遺物が集中している場合は図化して取上げた。

一定の深度で掘り下げたのちに、清掃作業、遺構検出作業を行った。遺構を検出できない場合はさらに掘下げる作業を繰返して、おおむねローム層上面まで掘下げて完掘とした。その後空撮を行い調査終了とした。

3. 調査の過程

平成12年度から調査をはじめた石塚遺跡は、調査区内の小グリッドに土層確認のためのトレンチを設定する作業からはじめた。

東西南北に1.5 m×5 m程度のトレンチを設定して調査区全体の土層状況を確認したのちに、小グリッド毎に面下げを行った。

遺物包含層はおおむね黒褐色で縄文～中世の遺物が出土した。包含層の形成が、時代毎の生活面に土砂が自然堆積した状況でなく周辺地からの土砂の流入等で堆積したためと思われる。

遺物包含層の形成後に何らかの遺構が掘られた場合は、その痕跡がみられると考えられるが、包含層での遺構検出は殆どできなかった。遺物が集積している場合は、図化したのちに面を下げることによって、下層での掘込みと上層での遺物の集積をあわせて遺構とした場合もある。

遺構に番号を付す場合、小グリッド単位で同一の遺構は1号から連番を付した。そのため同一調査区内で複数の1号〇〇が存在する。

石塚遺跡でもっとも出土した遺構・遺物は甕棺である。甕棺の掘削は、墓坑の平面プランが検出できた場合、墓坑の長軸にポイントを設定して半割して掘削した。しかし、墓坑の平面プランが明確に検出できたものは、出土量に比してわずかであった。

ほとんどの甕棺は、遺構検出時にわずかに土の色が変色しているところに、ローリングピンなどをさしこみ甕棺の存在を確認したのちに掘削した。

また、表土除去作業時に重機のバケットにひっかかったものもある。表土下の層位の堆積状況が異なるため、比較的浅い層に存在している場合と深い層に存在している場合がある。甕棺掘削作業は、甕棺の平面的なすがたを出したのちに、墓坑を掘りあげた例が多かった。墓坑も埋納時期の異なるものか、ななめに傾斜をもつものやほぼ平坦なものがあった。しかし、若干のブレはあるもののおおむね長軸を東西にとっている。

甕棺の平面出土状況を図化したのちに、上部（埋納している墓坑の接地面側が下部）を半裁して甕棺内部を図化した。遺物としての甕棺の図面は出土状況平面図・上部半裁図・完掘図・断面図がほぼワンセットで、人骨などが残存している場合は、断面図に見通しを付加した。また、甕棺の残存状況で適宜図化する内容をかえた。

石棺は、刳り貫き式のものではなく墓坑の四周に石材をたてて長方形の埋設空間をつくったものである。蓋石が被っていてほぼ完全なかたちでのこされているものと、石材の抜き取り痕などを確認して石棺と認識できるものまで、残存状況に差異があった。石棺が周溝の主体部に位置するものもあり円墳と考えていいものもあった。

住居は平面的な遺構プランが検出できたものは、長軸、短軸のポイントを設定してベルトをのこして掘削した。

平面プランは明確に検出できないが、竈の残滓と思われる焼土などが確認できるものに

については、サブトレンチを設定するなどして、住居の立ち上りなどを確認する作業を行い、平面プランを確定させて掘削した。

しかし、平面プランの一边に竈の残滓と住居の硬化面や柱穴が一部確認できたものも住居とした。

検出した住居は、住居内部に炉穴をもつものはなく、いずれかの一边に竈ないしは竈残滓と思われる焼土や、粘土塊がのこされているものであった。おおむね、古墳時代以降の住居と考えられる。

溝は、直線状のもの、きれいな円形をえがく周溝、幅が大きく掘込みがV字をえがくV字溝などを検出した。溝の性格については、さまざまに推測される。

直線状のものは、長さが長短あり旧地形と現地形との比較などにより、掘削時の状況を検討する必要がある。また、遺物をあまり伴わないものが多く、掘削された時期の推定がむずかしい。墓域として使用されている時期は、墓域の区画のために掘られた可能性が考えられる。

例えば、被葬者が属する集団や性別、年齢、死因などにより埋葬地を区分して埋葬していたのではないか。

また、埋葬地としての土地の利用以外では、耕作に伴う土地の区画、利排水のための溝などの用途が考えられる。

周溝はほぼ円形である。外周すべてが調査区内で確認できたものと、調査区外へ広がるため確認できなかったものがある。外周が確認できたものは未掘部分の土橋をもつ。また、周溝の中心部に石棺や石材が散乱しているものもあり円墳と考えていいものもあった。

その他の遺構としては土坑や柱穴、道路状遺構などが確認できた。また、不定形なかたちで不明遺構としたものもある。

第2章 調査概要報告

1. 遺跡の位置

本書で概要を報告する遺跡は、東部台地の大字北甘木字劔原に所在する石塚遺跡東部8-1区～8-4区および石塚16区～18区である。整理作業等の便宜上東部台地遺跡群Cエリアとした。Cエリアは石塚遺跡の西端部に位置しており、東部台地遺跡群の西端部といえる。

2. 遺跡周辺の地形

Cエリアが所在する東部台地は、上益城郡嘉島町東部から同郡御船町北部にかけて位置し、阿蘇火災流堆積物、御船層群上部層、中位段丘堆積物により形成された舌状台地で最大標高は45mほどである。

頂部には平坦地が広がり、東西軸中ほどから西側は緩斜面になり、熊本平野に延びる手前で加勢川水系矢形川により裾部が東西に分断されている。矢形川の東岸と井寺湧水群の南側、つまり東部台地の北西側に突出した形で井寺古墳がある。北側は、急斜面となっており、南側は矢形川の支流天水川により浸食された崖面によって平野部から独立している。

東部台地東側には布田川断層が南北方向に走り、この断層により幅500m程の帯状窪地が形成され、飯田山裾部と東部台地を分離させ、東部台地東端部に崖面を含む急斜面を形成することになり、東部台地が周辺地形からは独立した地形となっている。

東部台地の頂部平坦部は、舌状台地の東西軸の中央部分ぐらいから東端部にかけて広がり、その北半分は4m近い高低差がある。高低差の少ない安定した平坦部は、丘陵を東西南北に四分割した場合の南東地区にのみ分布している。この部分に弥生時代の集落である二子塚遺跡がある。この付近の標高は47.5m、小迫四差路付近で40.9m、上官塚付近では26.4mと東部台地は西に行くほど低くなる。嘉島町役場を含む熊本平野部で、おおむね標高6mとなる。この平野部は縄文海進時には干潟の海であり、東部台地の周辺部では貝塚がみられる。

熊本平野に面した阿蘇外輪山西麓にあたる地域には、阿蘇伏流水が多く湧出しているが、東部台地周辺部にも湧水地点が多い。

大規模な湧水群（井寺湧水群、下六嘉湧水群）として把握されている。東部台地周辺部の地下水位の季節変化は小さく水温も年平均17℃前後と安定しているため、良質な水資源に恵まれている。

3. 歴史的背景

東部台地遺跡群がある台地近辺における考古学的研究は、濱田耕作などにより報告された井寺古墳（国指定史跡）や、乙益重隆により調査されたカキワラ貝塚などが広く知られるところである。そのほかにも劔原の箱式石棺が知られており、古くから学術調査の対象となってきた。

近年では、現在のサントリービール工場建設に伴い、熊本県文化課が調査した二子塚遺

跡が弥生時代の一大集落であったことが知られている。しかし、耕作に伴い出土した甕棺や石棺の多くは考古学的な対応を経ずして消失したと考えられる。

4. 調査体制

発掘調査 2002年（平成14年度） 東部8-1区～8-4区

調査主体	嘉島町教育委員会	
調査責任者	教育長	吉富 昭保
調査事務局	社会教育課 課長	蜂屋 誠
	社会教育課 係長	中村 文士
調査担当	社会教育課 主事	中川 裕二
	埋蔵文化財発掘調査員 非常勤嘱託	野原 照世 高橋 靖広

発掘調査 2007年（平成19年度） 石塚16・17・18区

調査主体	嘉島町教育委員会	
調査責任者	教育長	六嘉 晉
調査事務局	社会教育課 課長	野村 和行
	社会教育課 審議員	松本 伸二
調査担当	社会教育課 主査	中川 裕二
	埋蔵文化財発掘調査員 非常勤嘱託	椎葉 天昭 浅久野友和

概要報告書 2014年（平成26年度）

調査主体	嘉島町教育委員会	
調査責任者	教育長	工藤 和之
調査事務局	社会教育課 課長	藤瀬 伸二
	社会教育課 係長	増永 貴士
整理担当	社会教育課 参事	中川 裕二
	埋蔵文化財発掘調査員 非常勤嘱託	稲葉 洋一

5. 調査概要

Cエリアにおける発掘調査は、平成14年度に東部8-1区～8-4区の調査を行い、平成19年度に石塚16区～18区の調査を行った。

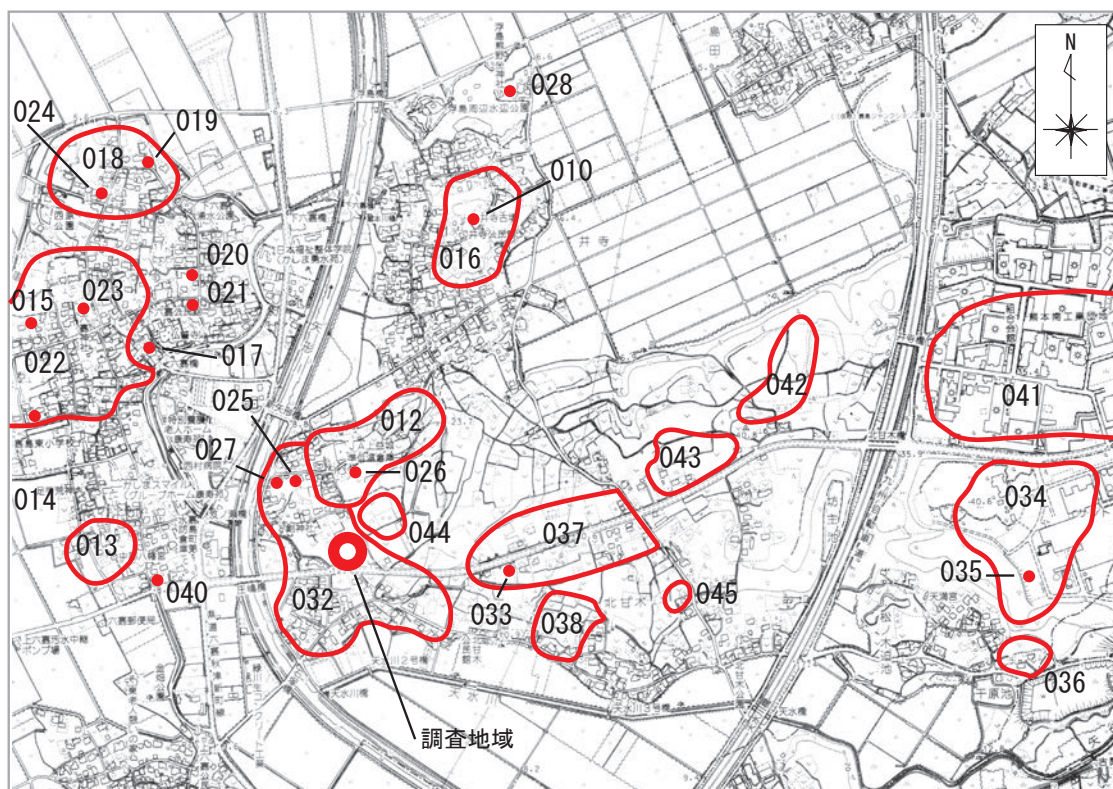
主な遺構は埋甕1基、甕棺49基、木棺1基、石棺2基、土坑7基、周溝5条、溝22条、住居址5基、不明遺構1基である。

遺跡群の西側の端部にあたりCエリアの現在の地形はほぼ平坦である。しかし、旧地形は起伏があり微高地が点在していたと考えられる。耕作地として整備される過程で削平を受け平坦面を造成したものと推測される。

東部8-1区の北側は大規模な攪乱を受けており、遺構などの確認はできなかった。東部8-4区の西側も人為的な掘込みが南北に広がっており、時期は定かではないが土地に手を加える先人たちの営為がみてとれる。

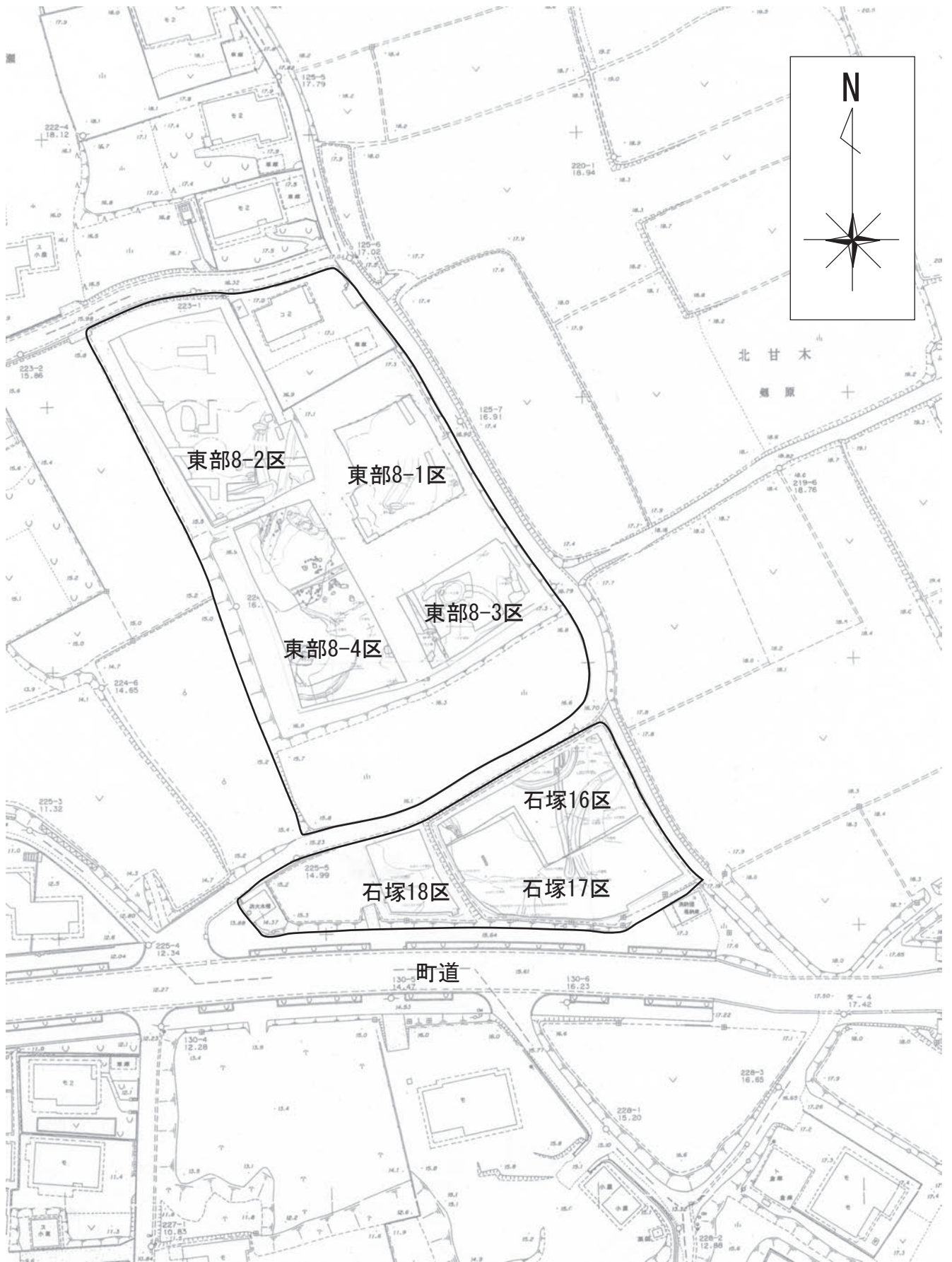


東部台地（北甘木台地）周辺の空中写真

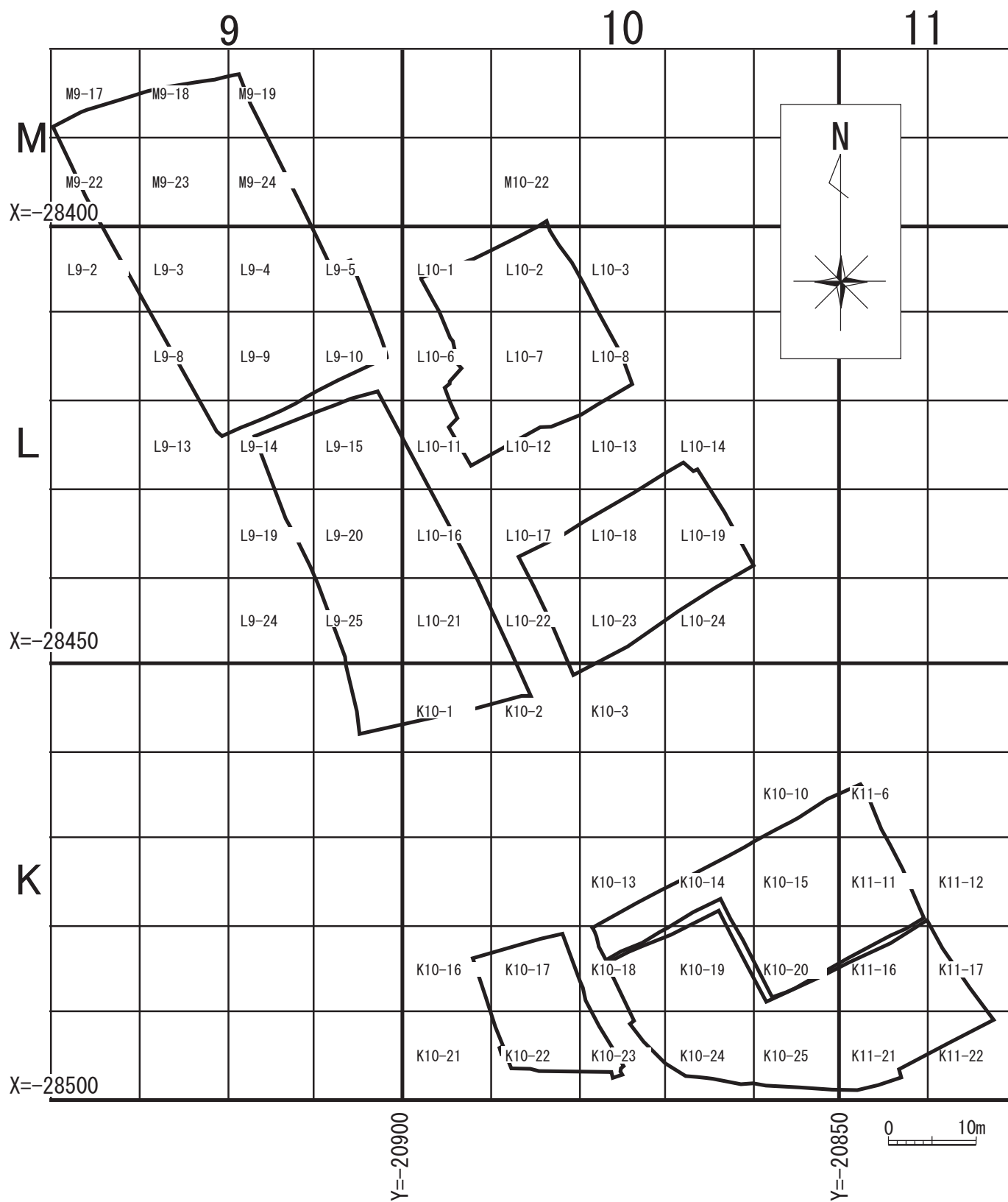


調査区周辺遺跡分布図 縮尺：1/15000
 「熊本県遺跡地図（熊本県教育委員会編所収）」

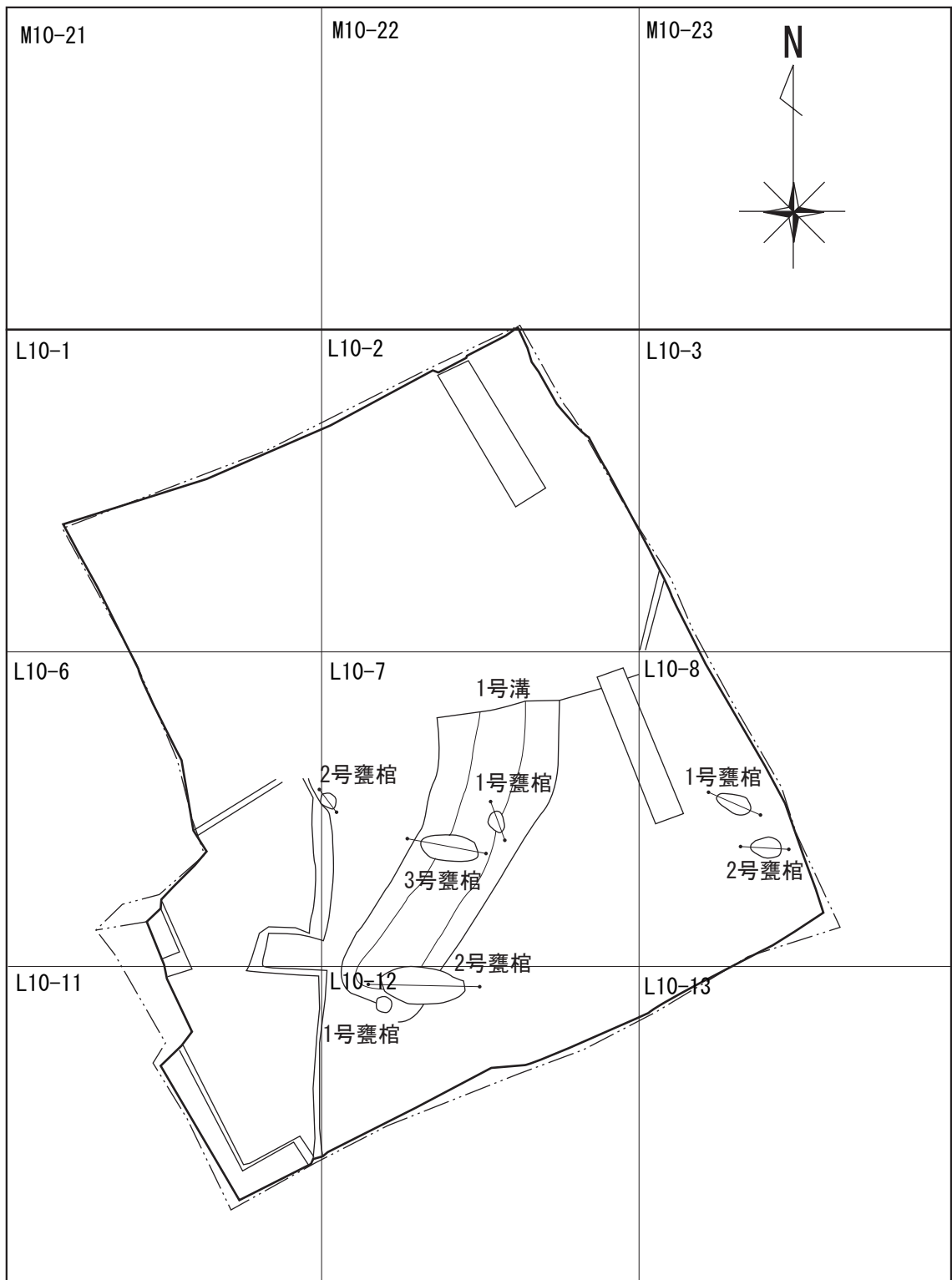
番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
010	井寺古墳	古墳	026	劔原古墳	古墳
011	上官塚古墳群	古墳	027	劔原甕棺群	弥生
012	上官塚遺跡	弥生	028	手水鉢	中世
013	カキワラ遺跡	弥生	032	石塚遺跡	縄文・弥生
014	カキワラ貝塚	縄文	033	御前塚古墳	古墳
015	宮の本甕棺群	弥生	034	二子塚遺跡	弥生～古代
016	井寺遺跡	古墳～中世	035	二子塚古墳	古墳
017	道上城跡	中世	036	下古閑遺跡	縄文
018	西光寺遺跡	縄文～中世	037	塔ノ木遺跡	縄文～古代
019	西光寺甕棺群	弥生	038	小迫遺跡	縄文
020	内屋敷遺跡	弥生	040	西林寺跡	中世
021	護宿神の墓（菊池武光）	中世	041	大羅遺跡	弥生
022	下六嘉遺跡群	弥生～古代	042	内野遺跡	弥生～古代
023	六嘉神社の五重塔	中世	043	町頭遺跡	弥生～古代
024	下六嘉の五重塔	中世	044	遠見塚遺跡	弥生～古代
025	遠見塚の塔	中世	045	紫原遺跡	弥生～古代



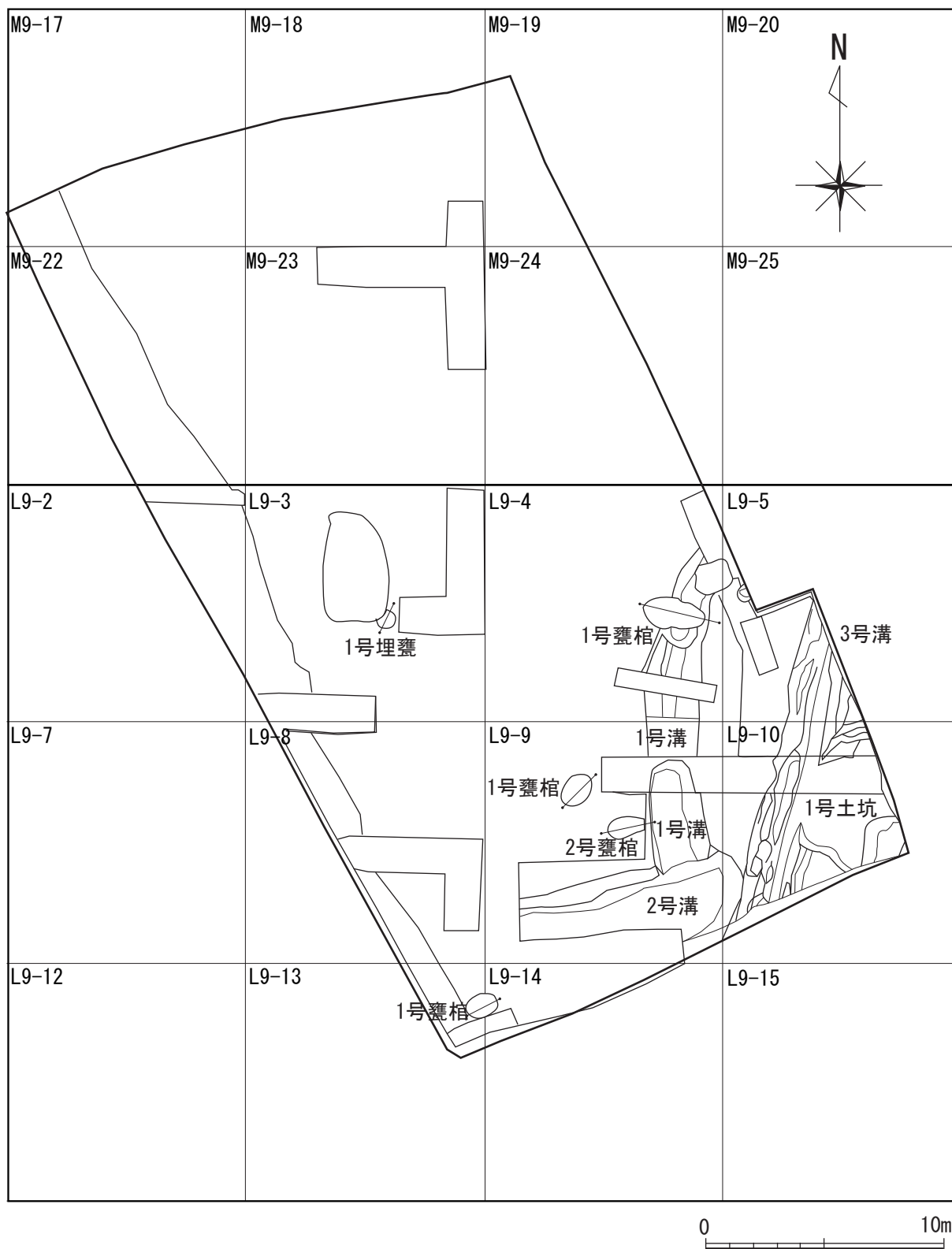
発掘調査位置図 縮尺 1/1000



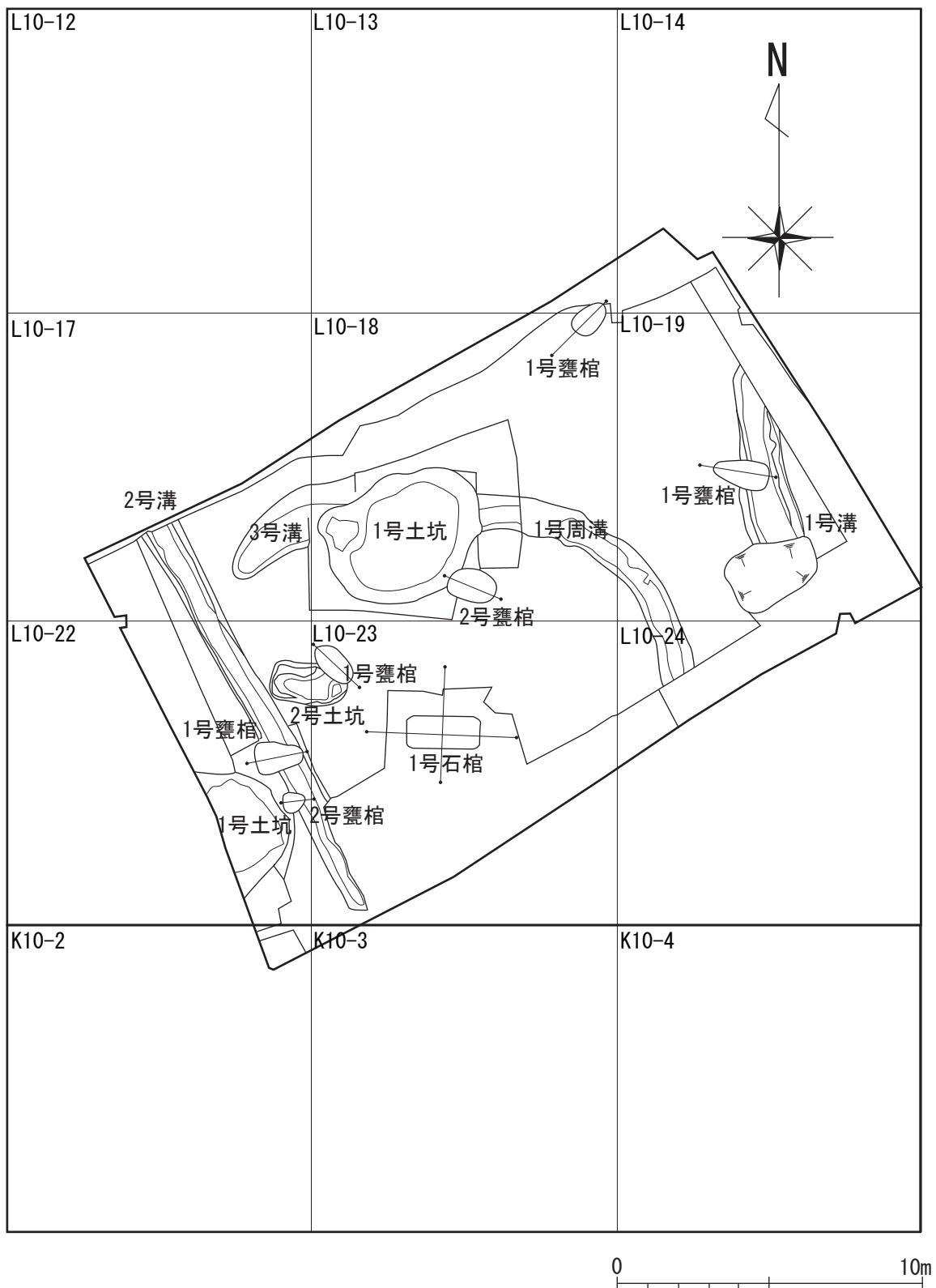
東部台地遺跡群 Cエリア グリッド設定図



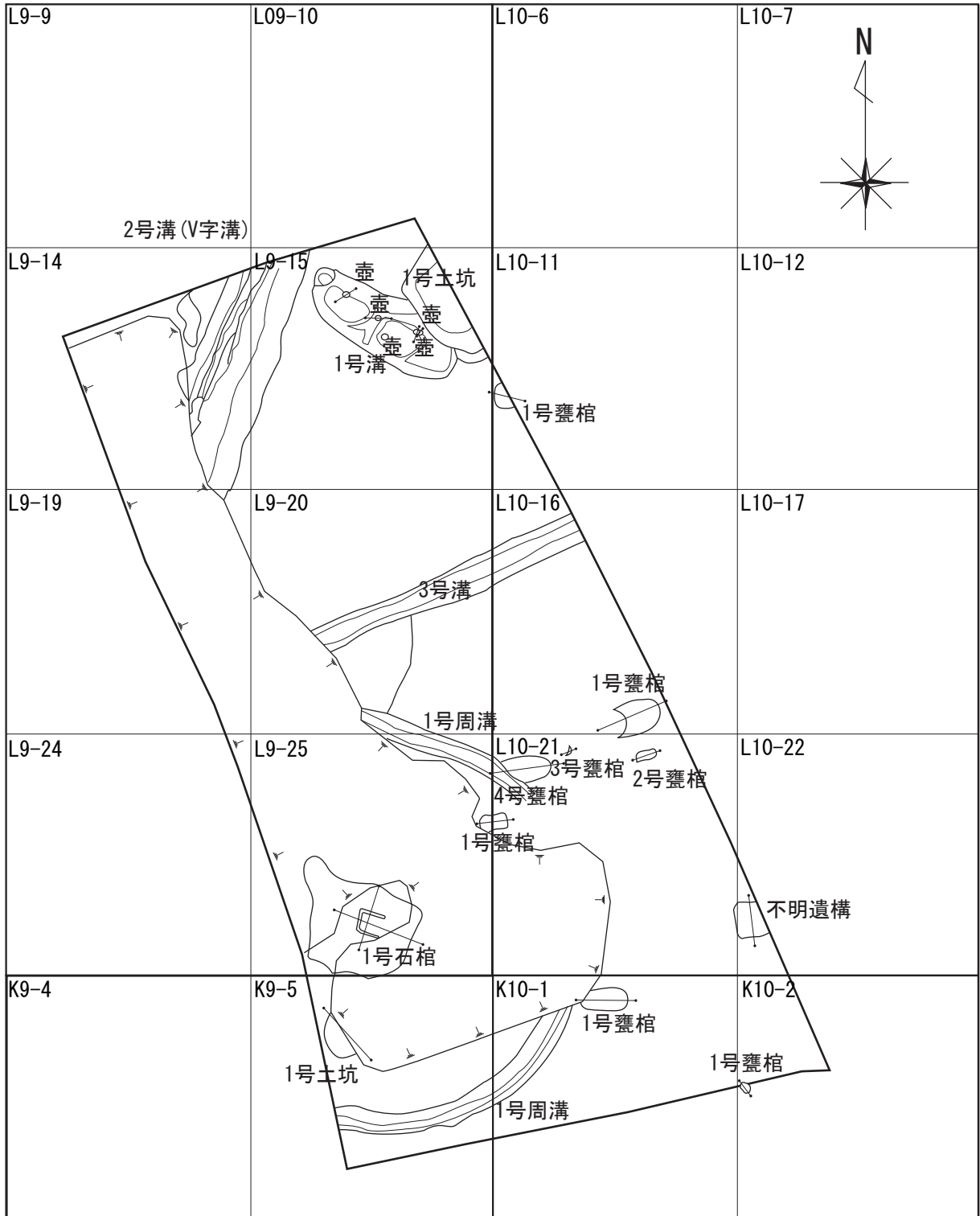
東部 8-1 区 遺構平面図



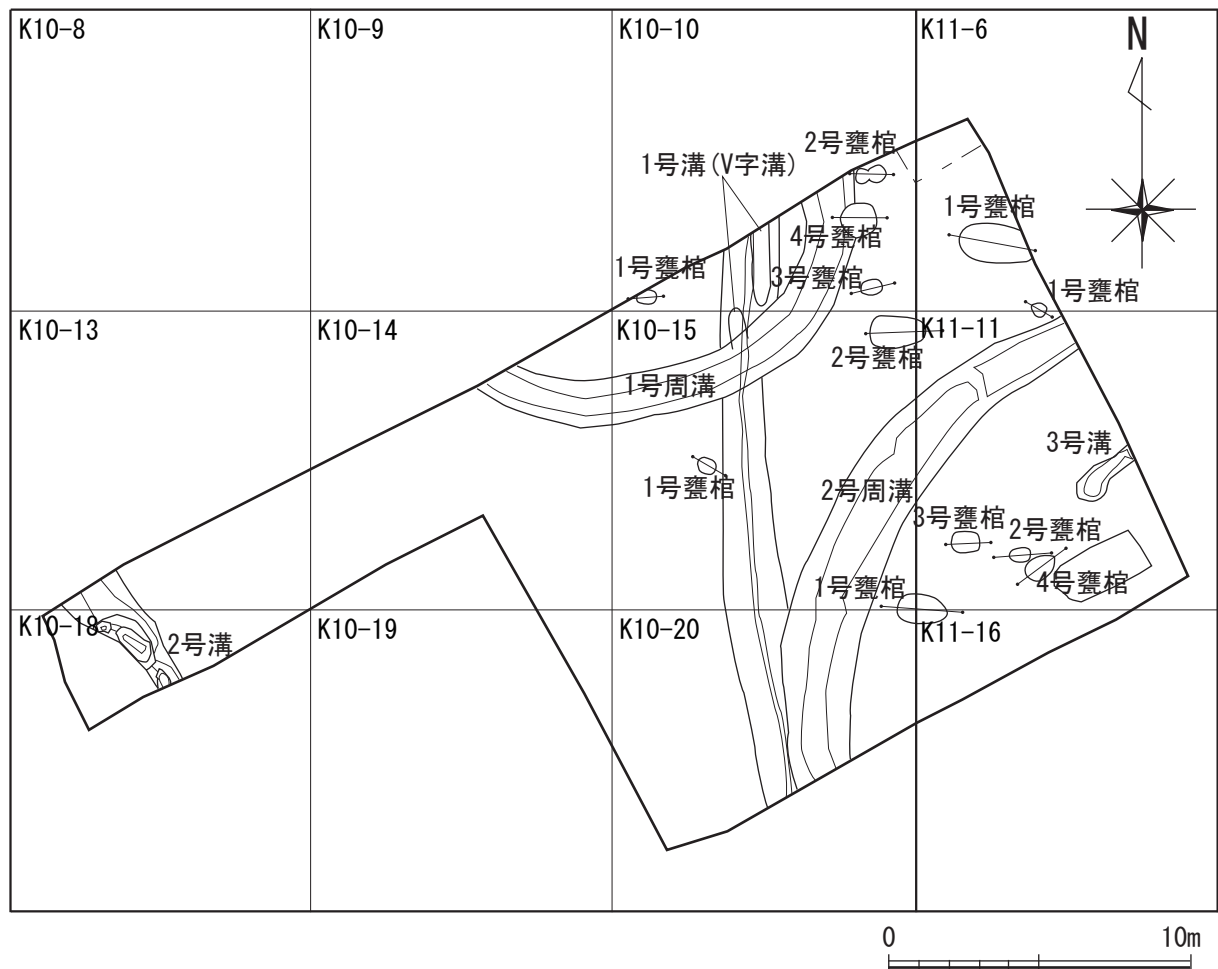
東部 8-2 区 遺構平面図



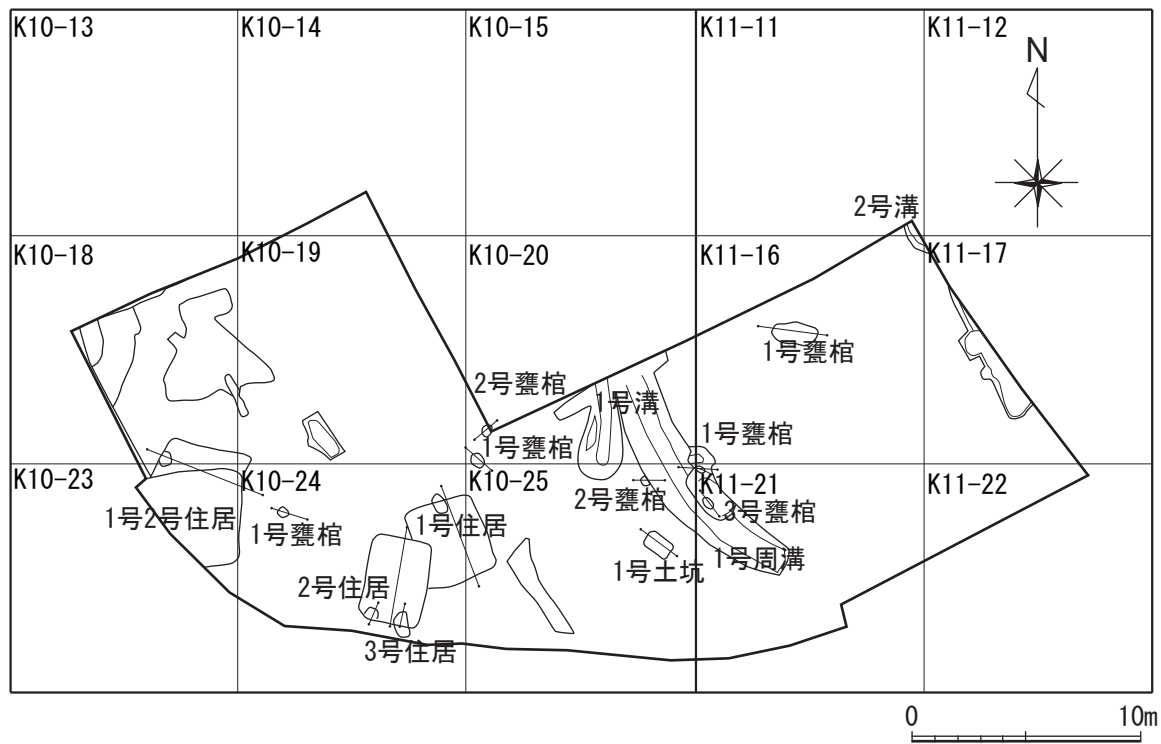
東部 8-3 区 遺構平面図



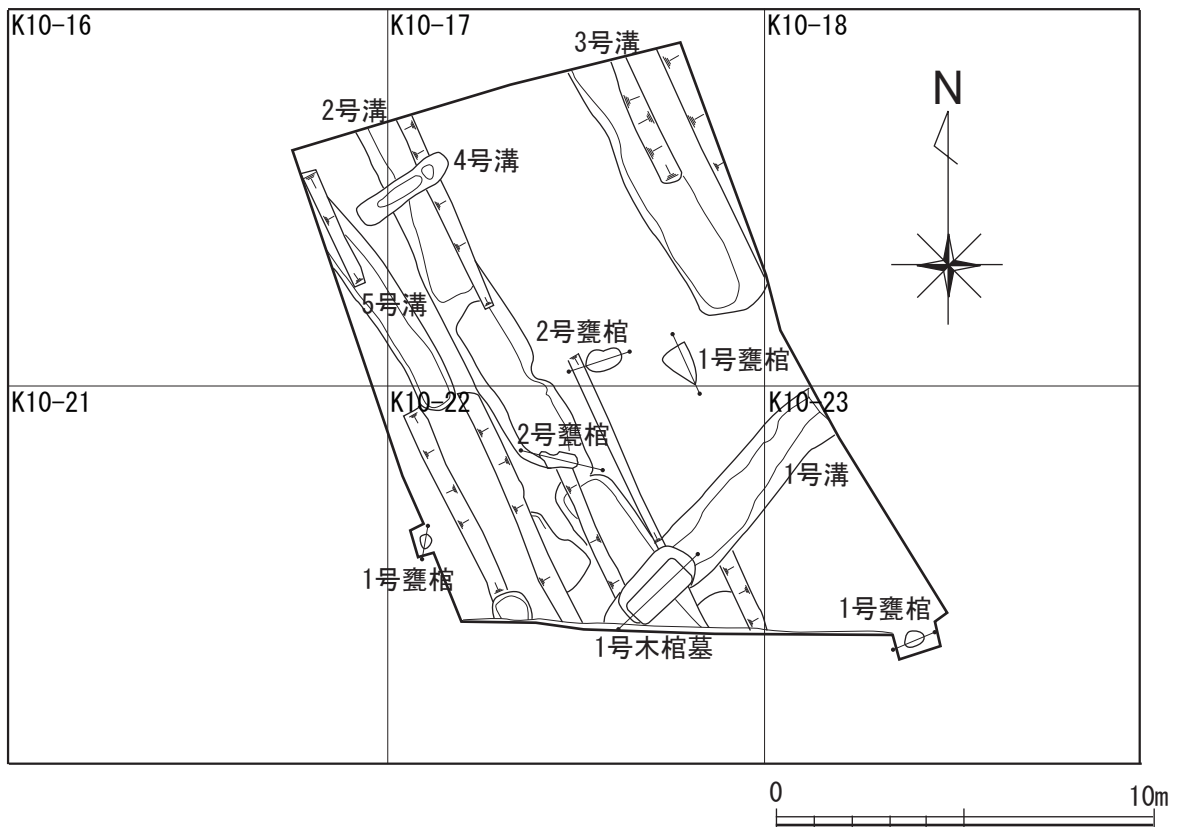
東部 8-4 区 遺構平面図



石塚 16 区 遺構平面図



石塚17区 遺構平面図



石塚18区 遺構平面図

甕棺 石棺 埋甕										
図面 番号	写真 番号	出土地点	遺構名	グリッド	種別	器種	法量(単位cm)	埋納角度	埋葬方位軸	備考
1	1	8-1区	1号甕棺	L10-7	弥生土器	甕	北甕22 南甕46	5°	N-21° -W	一部残存
2	2	8-1区	2号甕棺	L10-7	弥生土器	甕	27	水平	N-52° -E	一部残存
3	3	8-1区	3号甕棺	L10-7	弥生土器	甕	西甕70 東甕72	水平	N-78° -W	ほぼ完形
4	4	8-1区	1号甕棺	L10-8	弥生土器	甕	西甕48 東甕58	15°	N-66° -W	一部残存
5	5	8-1区	2号甕棺	L10-8	弥生土器	甕	西甕75 東甕32	15°	N-87° -W	下半分残存
6	6	8-1区	1号甕棺	L10-12	弥生土器	甕	50	測定不可	測定不可	一部残存 粘土
7	7	8-1区	2号甕棺	L10-12	弥生土器	甕	西甕115 東甕115	5°	N-89° -W	ほぼ完形 人骨残存
8	8	8-2区	1号甕棺	L9-4	弥生土器	甕	西甕126 東甕39	水平	N-77° -W	ほぼ完形 人骨・粘土残存
9	9	8-2区	1号甕棺	L9-9	弥生土器	甕	西甕27 東甕108	水平	N-46° -E	一部残存 粘土
10	10	8-2区	2号甕棺	L9-9	弥生土器	甕	西甕45 東甕93	5°	N-78° -E	一部残存 粘土
11	11	8-2区	1号甕棺	L9-13	弥生土器	甕	西甕28 東甕64	15°	N-62° -E	ほぼ完形 粘土
12	12	8-3区	1号甕棺	L10-18	弥生土器	甕	西甕50 東甕35	15°	N-45° -E	一部残存
13	13	8-3区	2号甕棺	L10-18	弥生土器	甕	70	15°	N-68° -W	一部残存
14	14	8-3区	1号甕棺	L10-19	弥生土器	甕	西甕108 東甕67	水平	N-81° -W	部分欠損 粘土
15	15	8-3区	1号甕棺	L10-22	弥生土器	甕	92	5°	N-78° -E	一部残存
16	16	8-3区	2号甕棺	L10-22	弥生土器	甕	34	5°	N-86° -E	一部残存
17	17	8-3区	1号甕棺	L10-23	弥生土器	甕	西甕63 東甕73	水平	N-43° -W	部分欠損 粘土
18	18	8-4区	1号甕棺	L10-11	弥生土器	甕	118	5°	N-77° -W	一部残存

遺物観察表

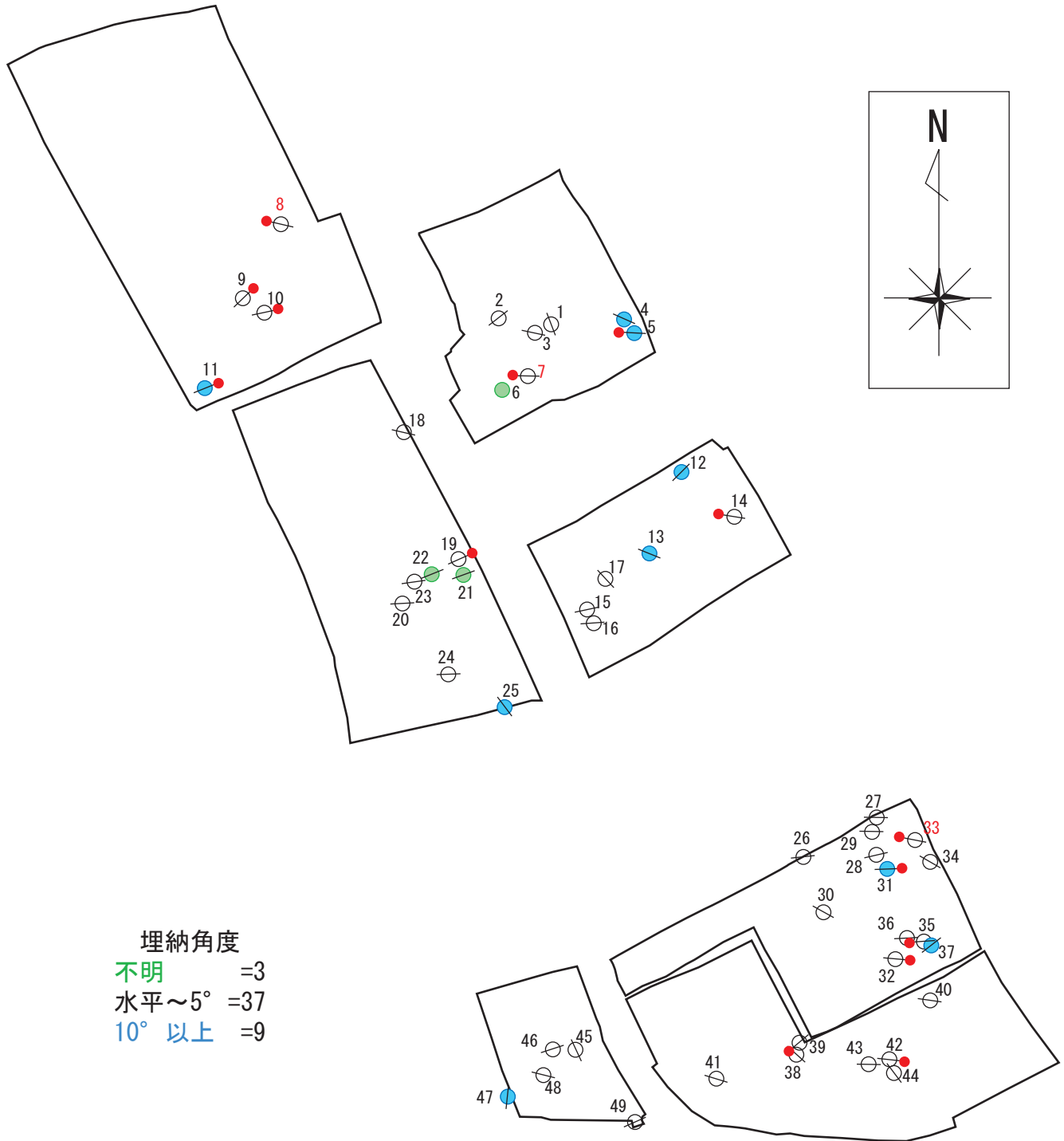
図面番号	写真番号	出土地点	遺構名	グリッド	種別	器種	法量 (単位 c m)	埋納角度	埋葬方位軸	備考
19	19	8-4区	1号甕棺	L10-16	弥生土器	甕	西甕63 東甕65	水平	N-66° -E	一部残存 粘土
20	20	8-4区	1号甕棺	L10-21	弥生土器	甕	65	水平	N-87° -E	一部残存
21	21	8-4区	2号甕棺	L10-21	弥生土器	甕	西甕42 東甕9	測定不可	N-70° -E	一部残存
22	22	8-4区	3号甕棺	L10-21	弥生土器	甕	28	測定不可	N-68° -E	一部残存 粘土
23	23	8-4区	4号甕棺	L10-21	弥生土器	甕	西甕82 甕82	5°	N-82° -E	一部残存 粘土
24	24	8-4区	1号甕棺	K10-1	弥生土器	甕	西甕88 東甕92	水平	N-88° -E	部分欠損
25	25	8-4区	1号甕棺	K10-2	弥生土器	甕	北甕9 南甕30	25°	N-37° -W	下半分残存
26	26	石塚16区	1号甕棺	K10-10	弥生土器	甕	72	5°	N-84° -E	一部残存
27	27	石塚16区	2号甕棺	K10-10	弥生土器	甕	西甕40 東甕35	水平	N-89° -W	部分欠損
28	28	石塚16区	3号甕棺	K10-10	弥生土器	甕	65	水平	N-77° -E	下半分残存
29	29	石塚16区	4号甕棺	K10-10	弥生土器	甕	西甕47 東甕50	水平	N-89° -W	部分欠損
30	30	石塚16区	1号甕棺	K10-15	弥生土器	甕	西甕47 東甕24	水平	N-61° -W	部分欠損
31	31	石塚16区	2号甕棺	K10-15	弥生土器	甕	西甕34 東甕108	10°	N-88° -E	ほぼ完形 粘土
32	32	石塚16区	1号甕棺	K10-20	弥生土器	甕	西甕60 東甕103	水平	N-85° -W	ほぼ完形
33	33	石塚16区	1号甕棺	K11-6	弥生土器	甕	西甕100 東甕47	水平	N-79° -W	ほぼ完形 人骨残存
34	34	石塚16区	1号甕棺	K11-11	弥生土器	甕	39	水平	N-60° -W	下半分残存
35	35	石塚16区	2号甕棺	K11-11	弥生土器	甕	西甕67 東甕26	水平	N-86° -E	一部残存
36	36	石塚16区	3号甕棺	K11-11	弥生土器	甕	81	水平	N-87° -E	部分欠損

遺物観察表

図面 番号	写真 番号	出土地点	遺構名	グリッド	種別	器種	法量 (単位 c m)	埋納角度	埋葬方位軸	備考
37	37	石塚16区	4号甕棺	K11-11	弥生土器	甕	70	10°	N-52° -E	ほぼ完形
38	38	石塚17区	1号甕棺	K10-19	弥生土器	甕	西甕29 東甕38	水平	N-48° -W	一部残存
39	39	石塚17区	2号甕棺	K10-20	弥生土器	甕	西甕50 東甕24	水平	N-50° -E	一部残存
40	40	石塚17区	1号甕棺	K11-16	弥生土器	甕	西甕52 東甕70	水平	N-82° -W	-
41	41	石塚17区	1号甕棺	K10-24	弥生土器	甕	43	水平	N-73° -W	下半分残存
42	42	石塚17区	1号甕棺	K10-25	弥生土器	甕	西甕15 東甕87	水平	N-84° -W	ほぼ完形
43	43	石塚17区	2号甕棺	K10-25	弥生土器	甕	58	水平	N-89° -W	下半分残存
44	44	石塚17区	3号甕棺	K10-25	弥生土器	甕	北甕65 南甕70 南重ね甕56	水平	N-37° -W	ほぼ完形 重ね甕
45	45	石塚18区	1号甕棺	K10-17	弥生土器	甕	72	水平	N-27° -W	一部残存
46	46	石塚18区	2号甕棺	K10-17	弥生土器	甕	西甕67 東甕25	5°	N-72° -E	一部残存 粘土
47	47	石塚18区	1号甕棺	K10-22	弥生土器	甕	北甕29 南甕16	30°	N-6° -E	一部残存
48	48	石塚18区	2号甕棺	K10-22	弥生土器	甕	西甕63 東甕66	水平	N-76° -W	一部残存
49	49	石塚18区	1号甕棺	K10-23	弥生土器	甕	西甕62 東甕26	水平	N-66° -E	一部残存
50	50	8-3区	1号石棺	L10-23	石材	石板	100	水平	N-90° -W	写真は石棺跡
51	51	8-4区	1号石棺	L9-25	石材	石板	115	水平	N-90° -W	-
52	52	8-2区	1号埋甕	L9-3	縄文土器	甕	39	-	-	口縁部は後年に破損

遺物観察表

甕棺の方向軸を配置し、頭部推定を含む埋葬方向に赤印、かつ頭部人骨を認める甕棺には赤数字にて表記。埋納角度においては下記のように角度によって各色で表記している。



甕棺埋納方向

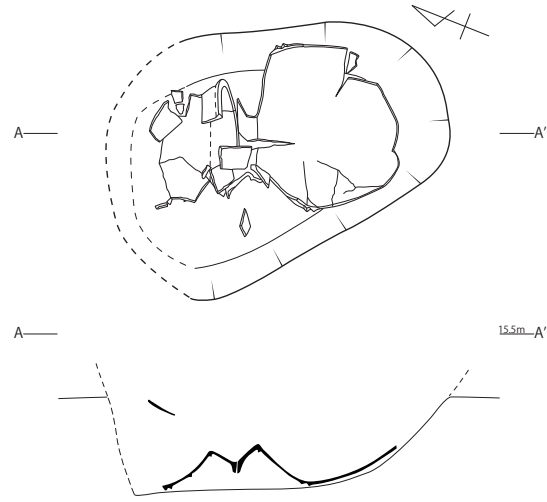


图1 8-1区 L10-7 1号甕棺

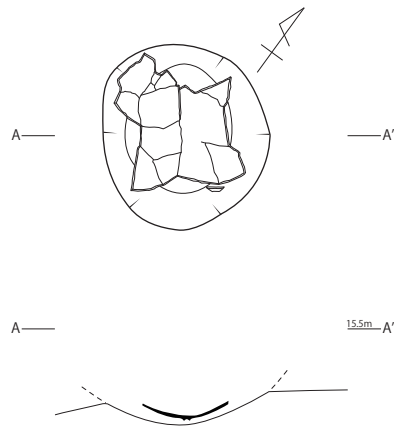


图2 8-1区 L10-7 2号甕棺



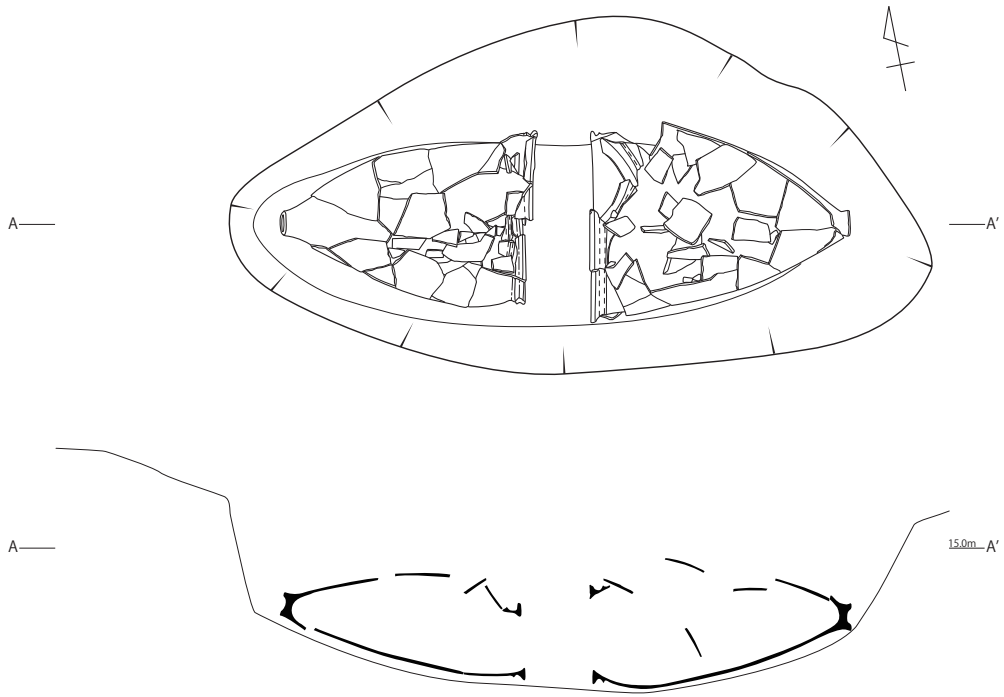


图3 8-1区 L10-7 3号甕棺

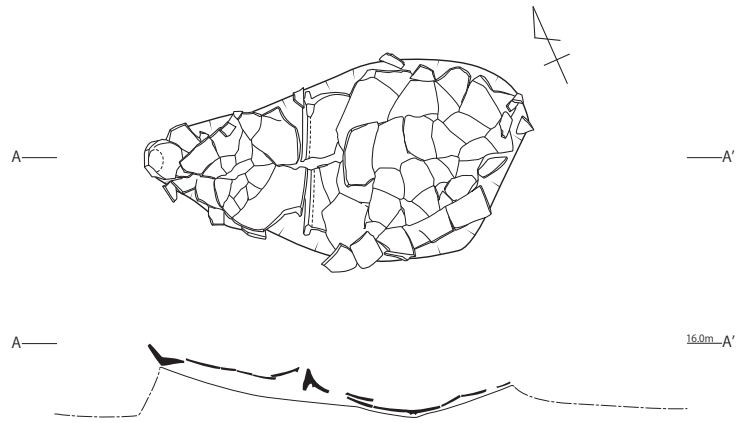


图4 8-1区 L10-8 1号甕棺



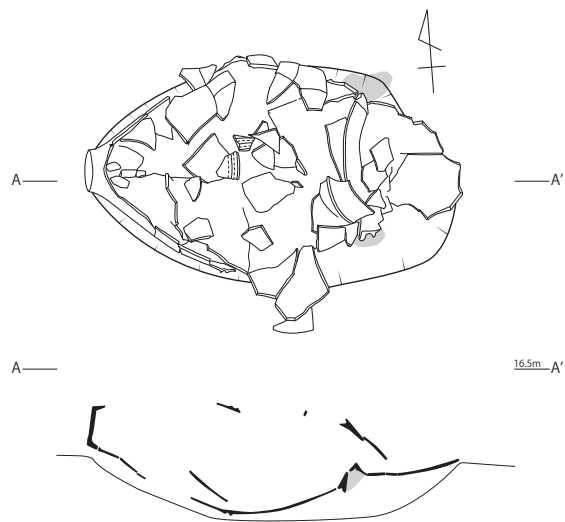


图5 8-1区 L10-1 2号甕棺

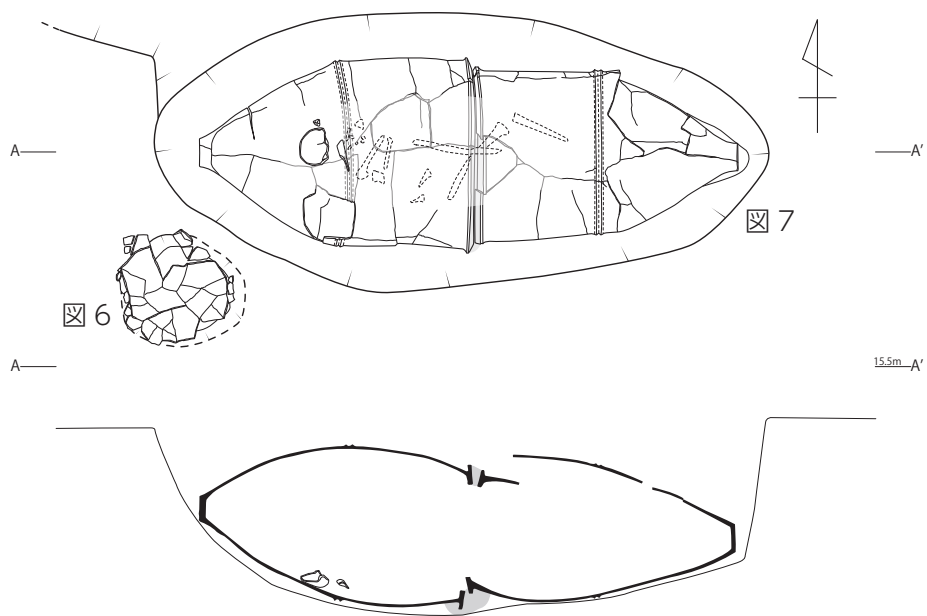


图6 8-1区 L10-12 1号甕棺

图7 8-1区 L10-12 2号甕棺



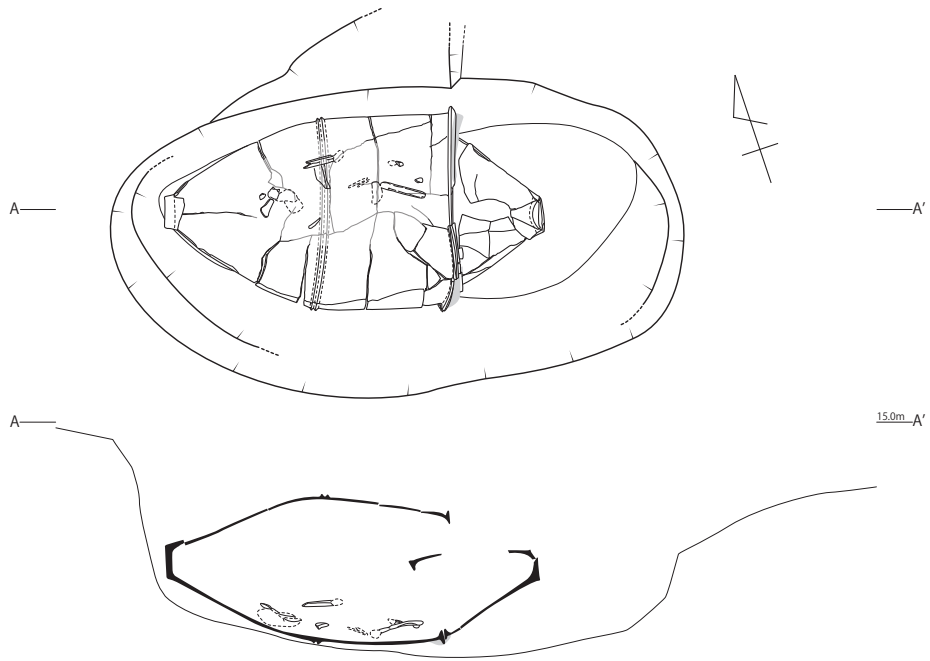


图8 8-2区 L9-4 1号甕棺

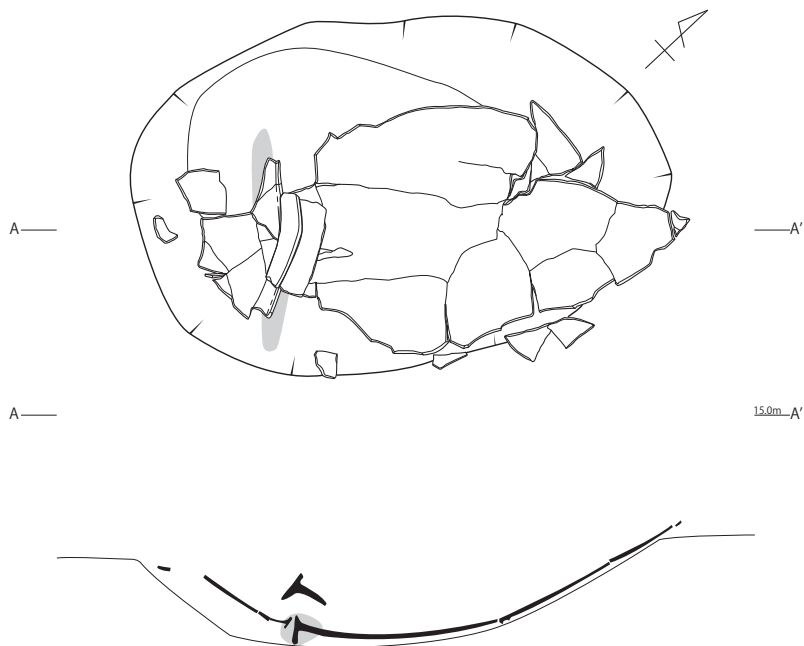


图9 8-2区 L9-9 1号甕棺



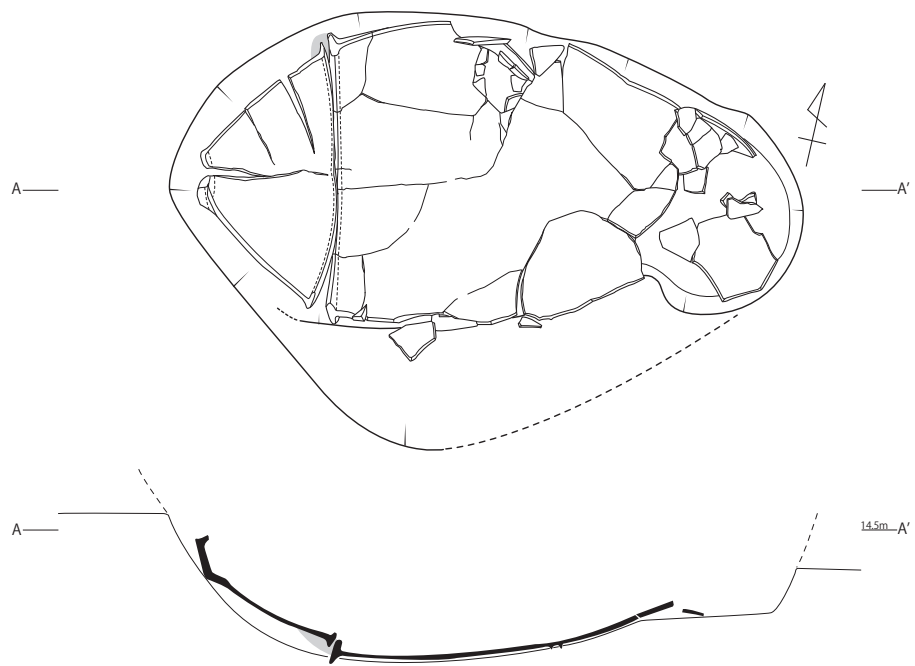


图 10 8-2 区 L9-9 2号甕棺

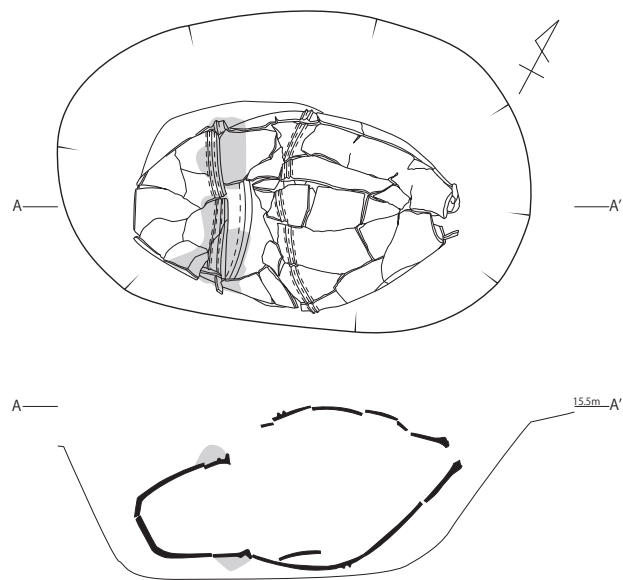


图 11 8-2 区 L9-13 1号甕棺



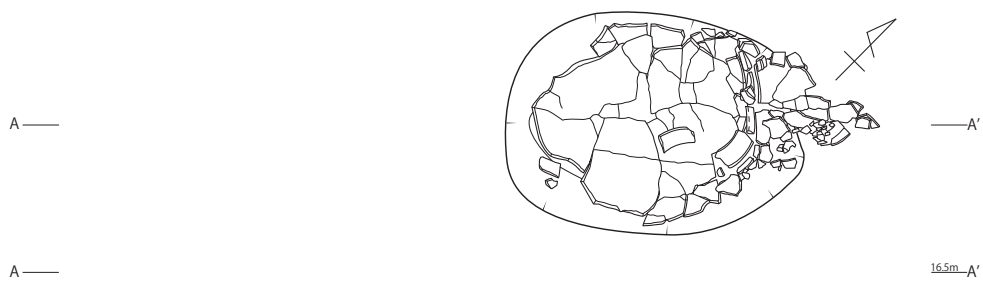


图 12 8-3区 L10-18 1号甕棺



图 13 8-3区 L10-18 2号甕棺



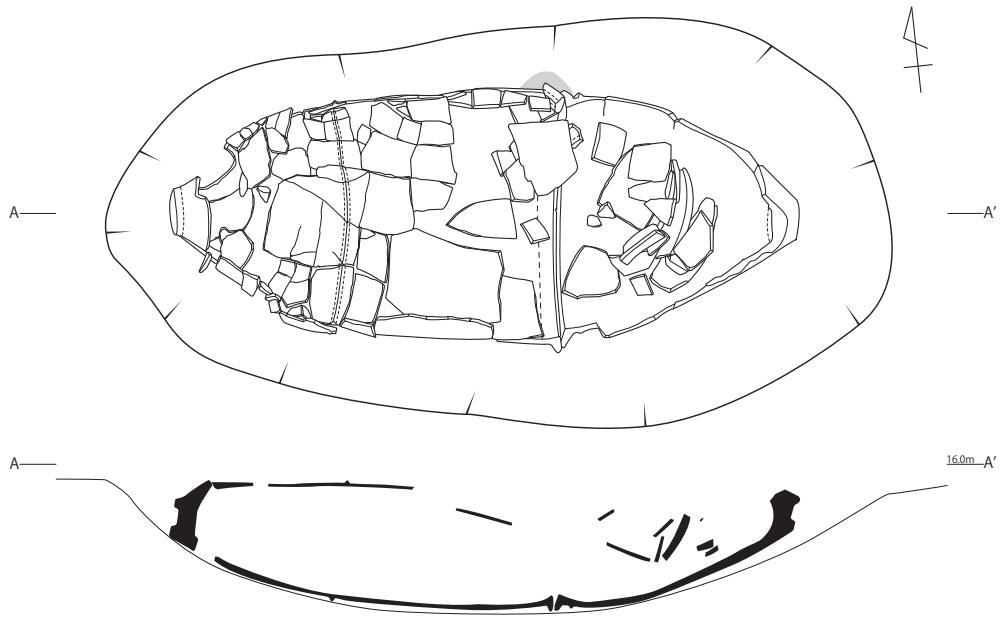


图 14 8-3 区 L10-19 1号甕棺

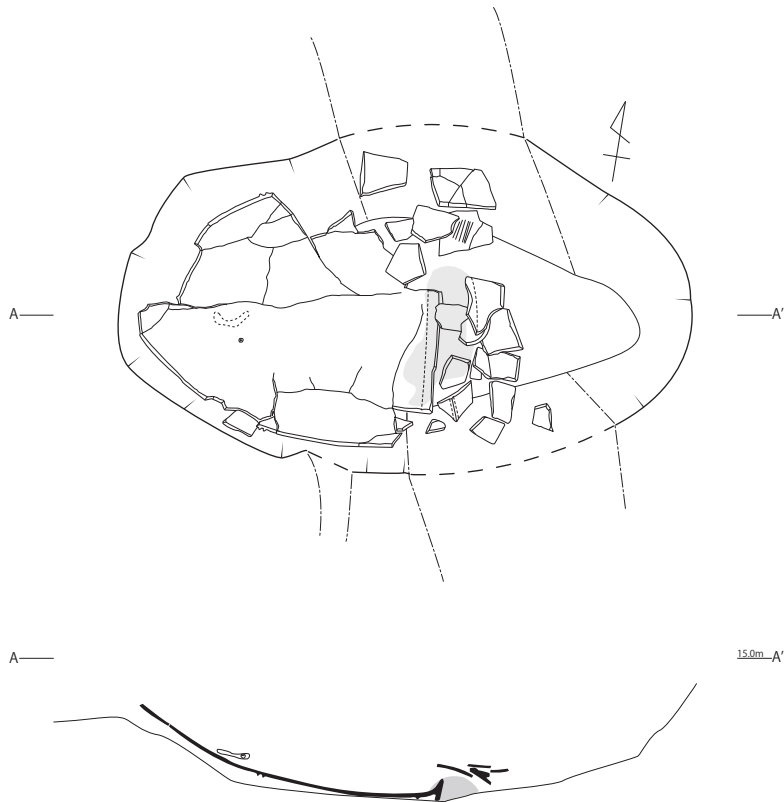


图 15 8-3 区 L10-22 1号甕棺



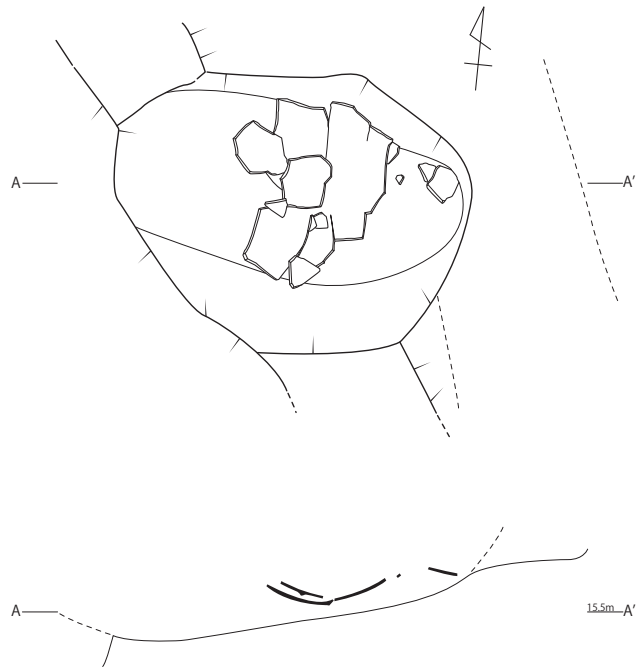


图 16 8-3 区 L10-22 2号甕棺

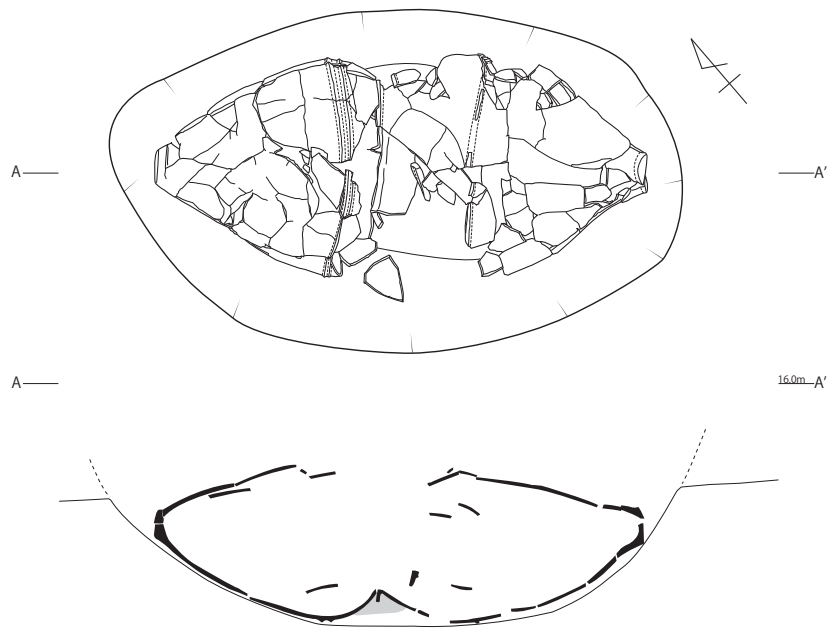


图 17 8-3 区 L10-23 1号甕棺



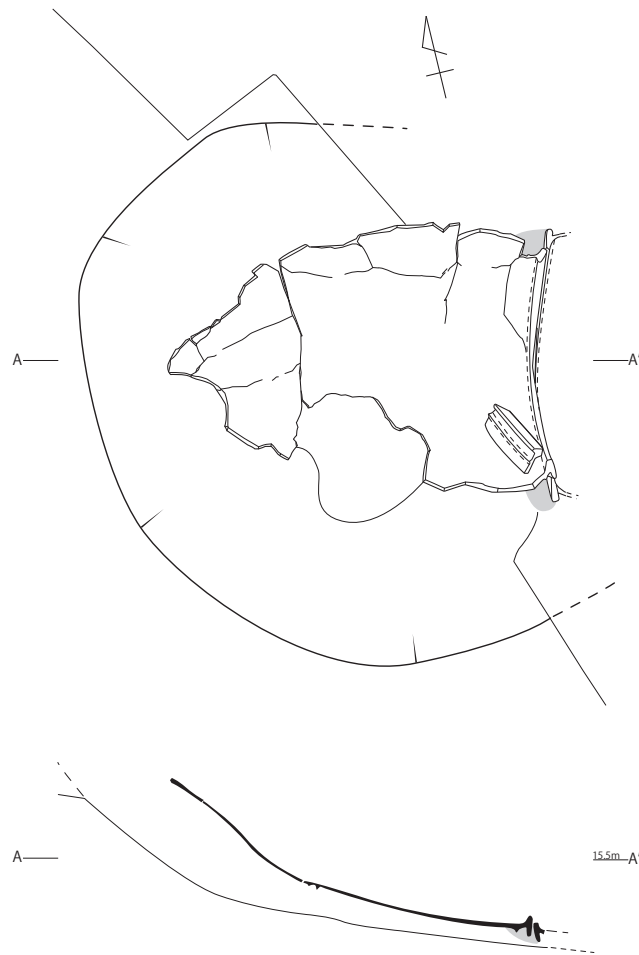


图 18 8-4区 L10-11 1号甕棺

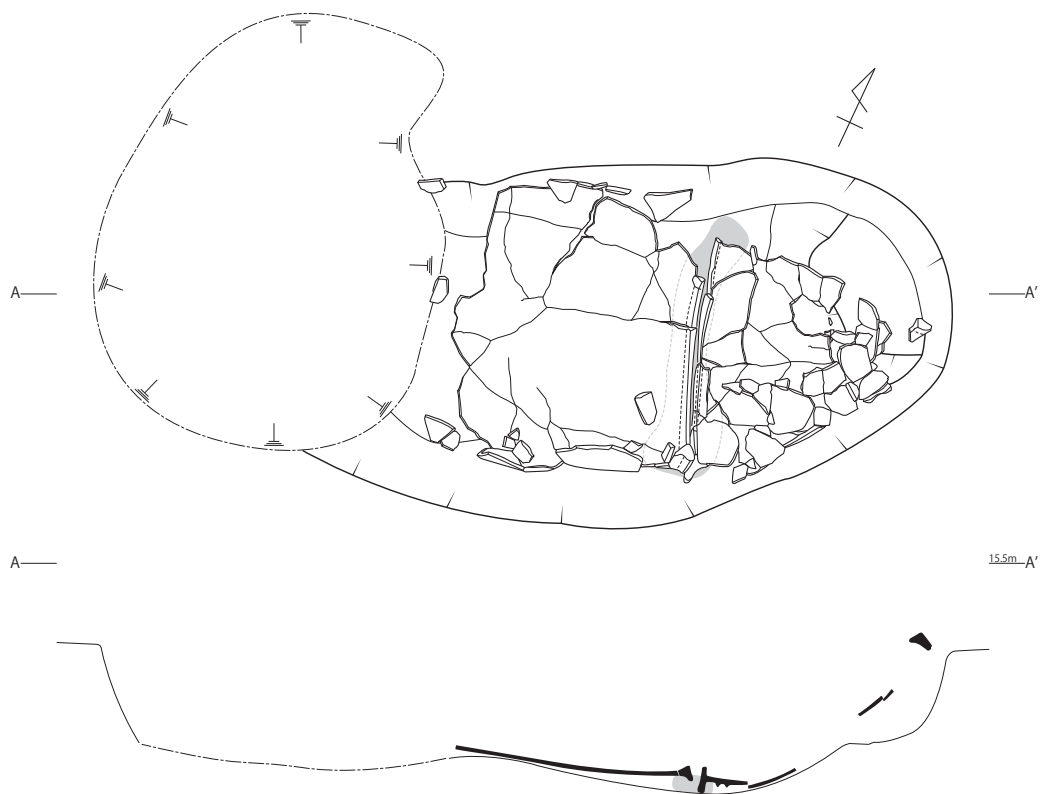


图 19 8-4区 L10-16 1号甕棺

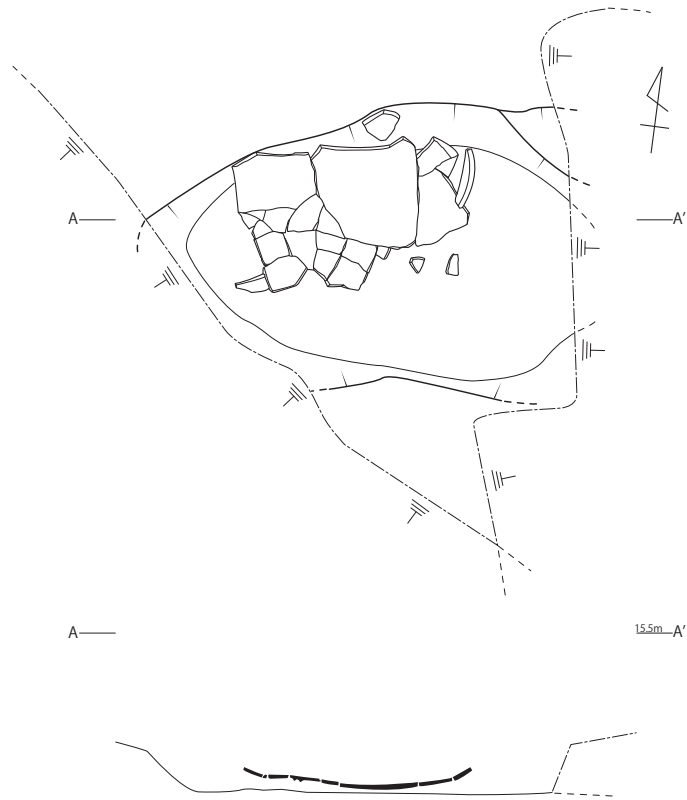


图 20 8-4区 L10-21 1号甕棺

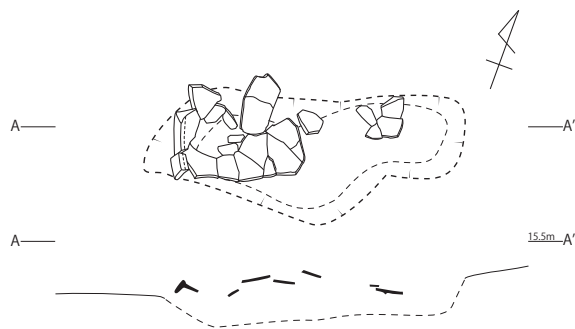


图 21 8-4区 L10-21 2号甕棺



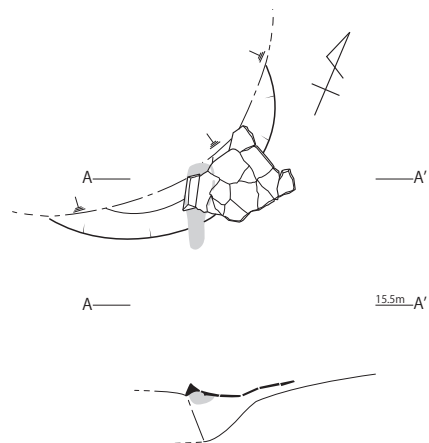


图 22 8-4 区 L10-21 3 号甕棺

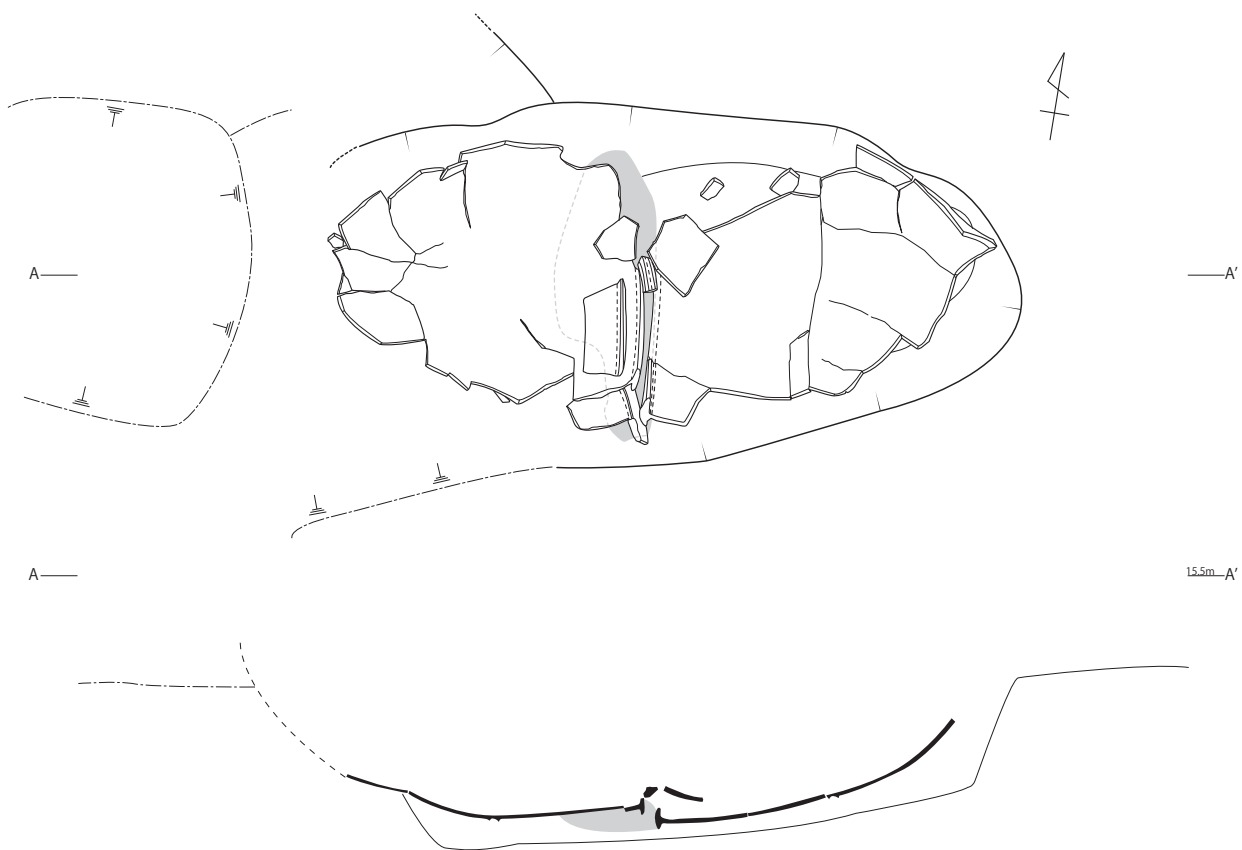


图 23 8-4 区 L10-21 4 号甕棺



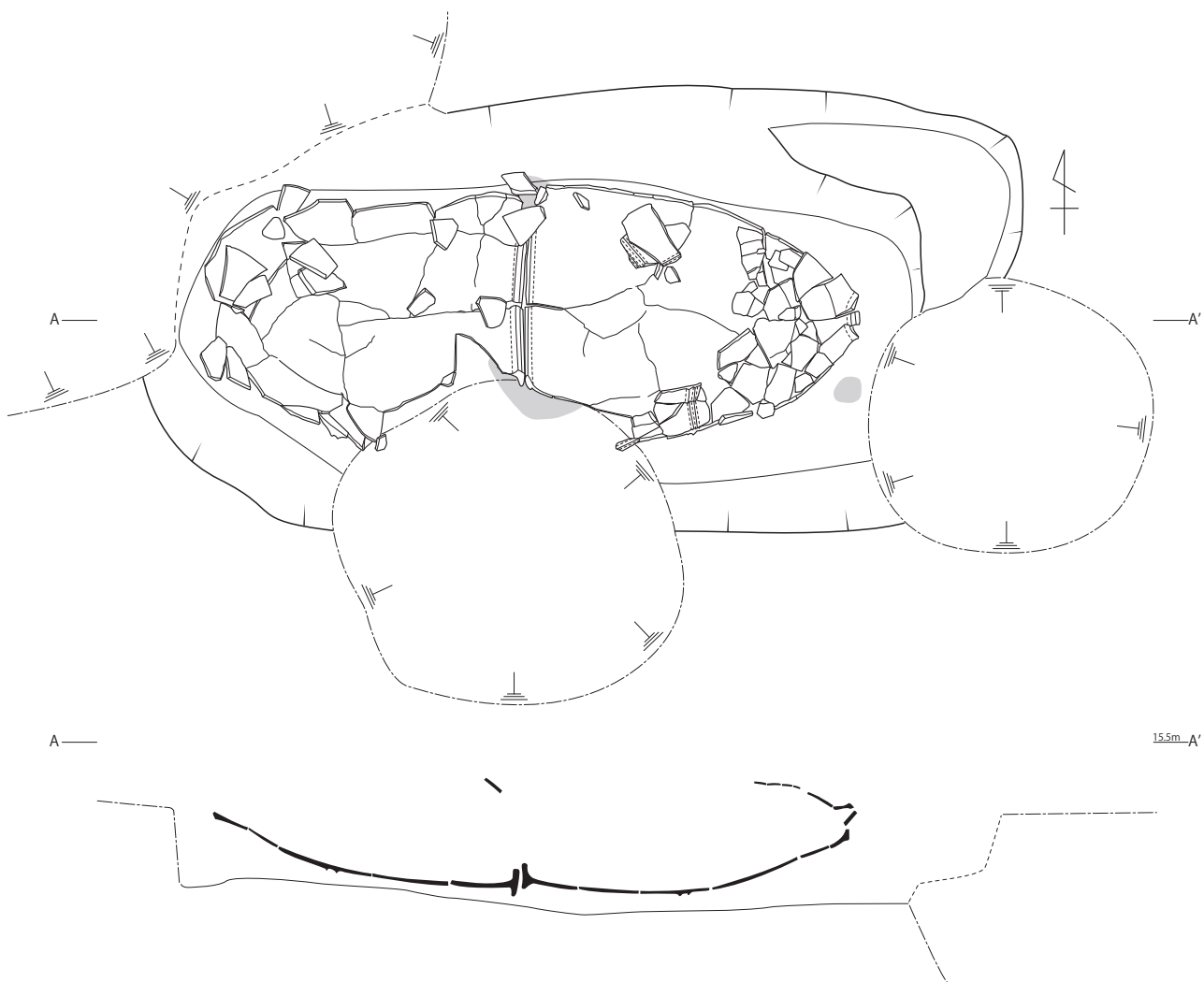


图 24 8-4区 K10-1 1号甕棺

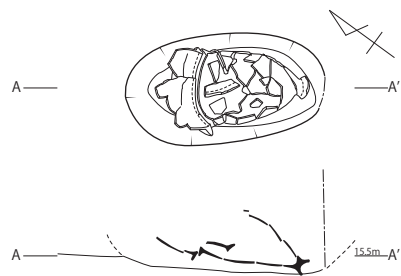


图 25 8-4区 K10-2 1号甕棺



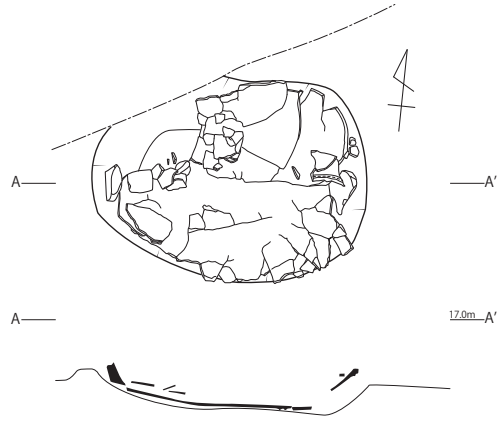


图 26 16区 K10-10 1号甕棺

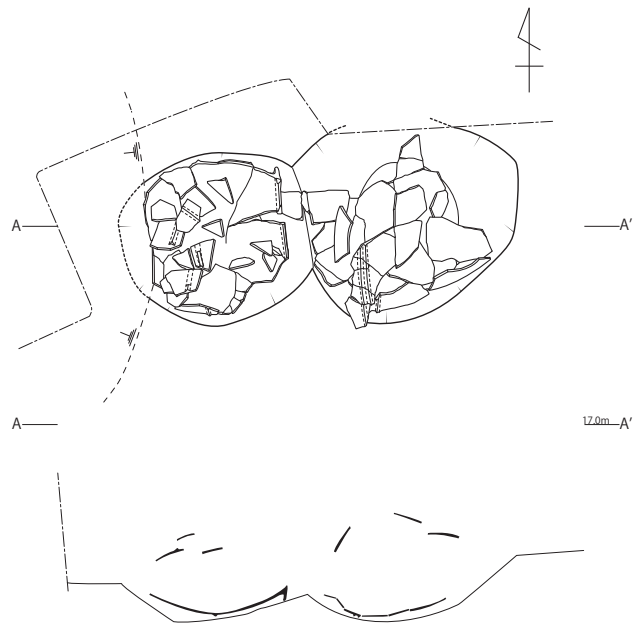


图 27 16区 K10-10 2号甕棺



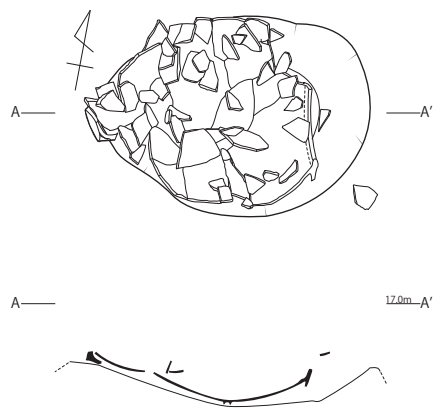


图 28 16区 K10-10 3号甕棺

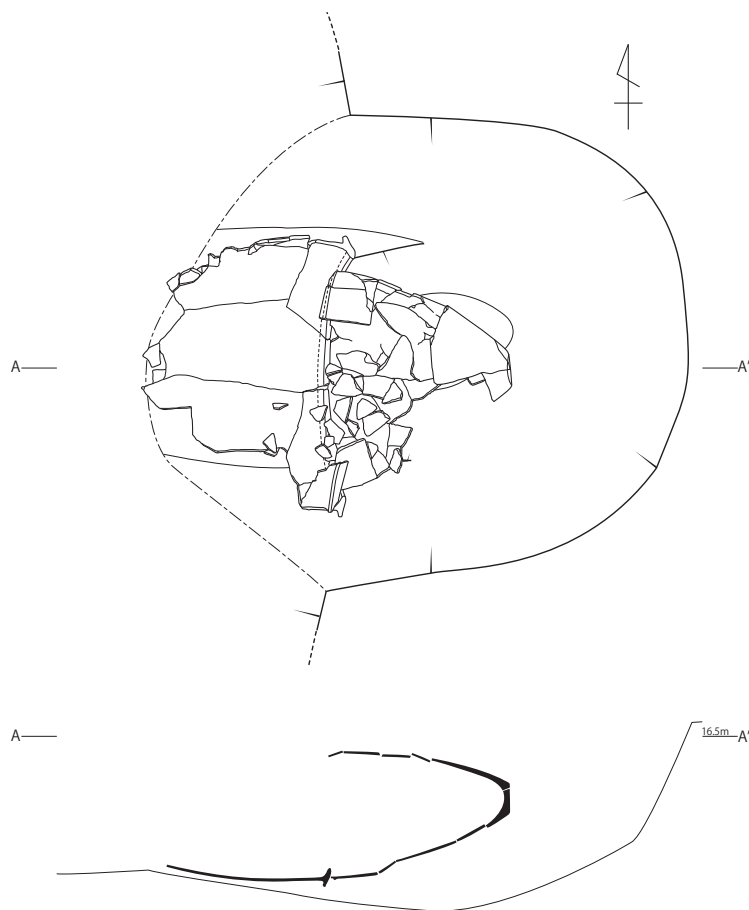


图 29 16区 K10-10 4号甕棺



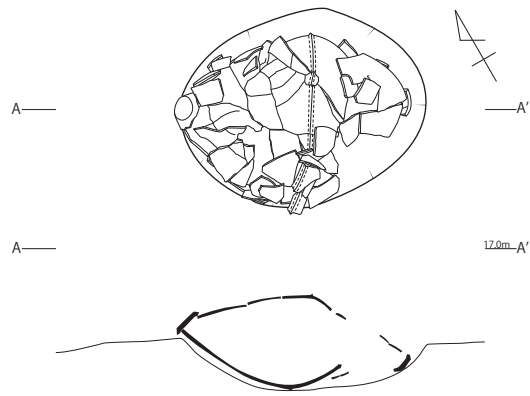


图 30 16 区 K10-15 1 号甕棺

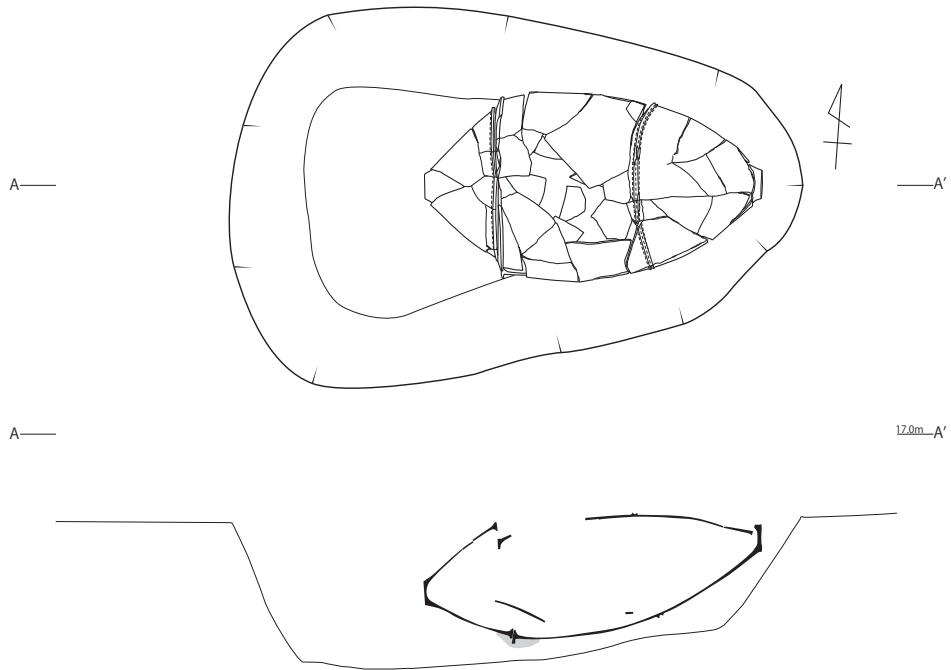


图 31 16 区 K10-15 2 号甕棺



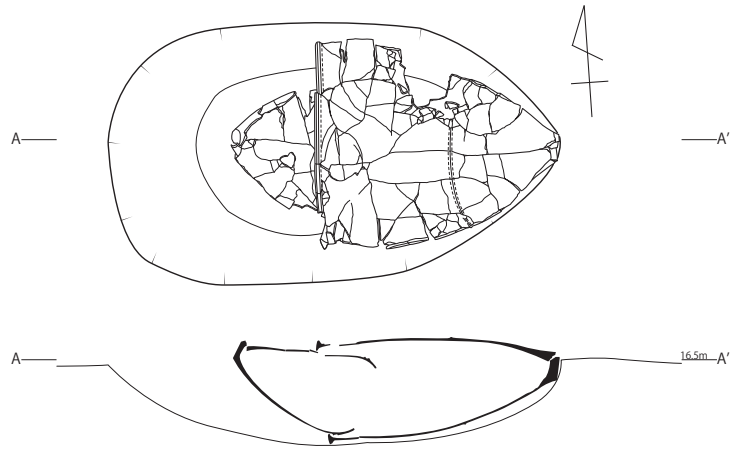


图 32 16区 K10-20 1号甕棺

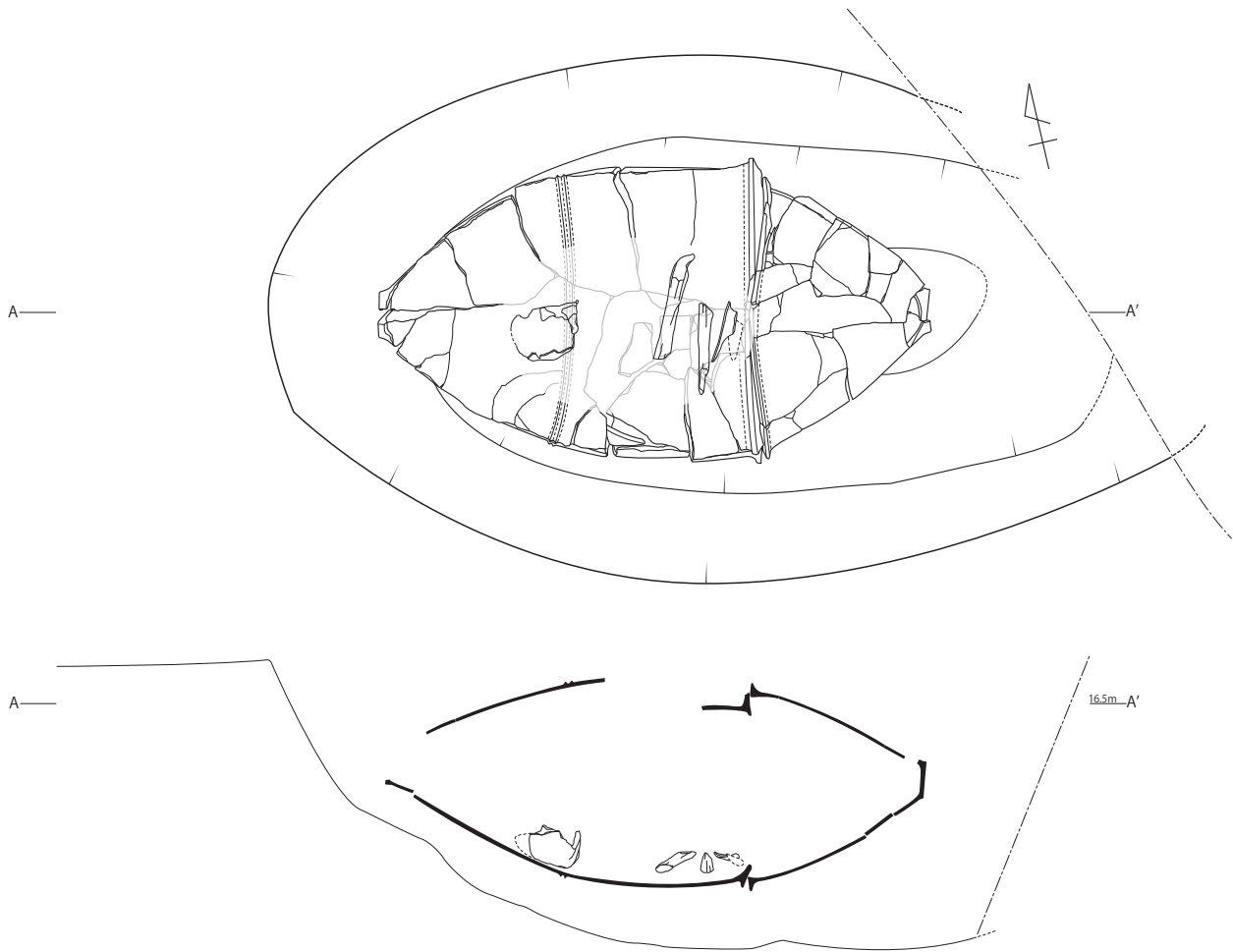


图 33 16区 K11-6 1号甕棺



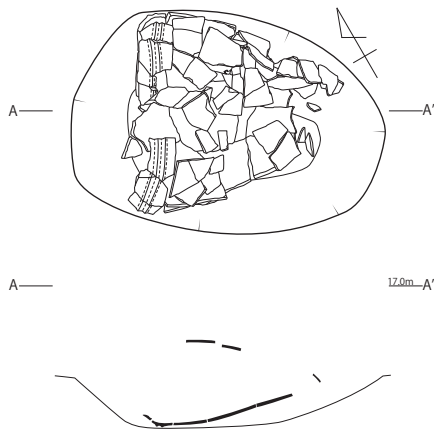


图 34 16区 K11-11 1号甕棺

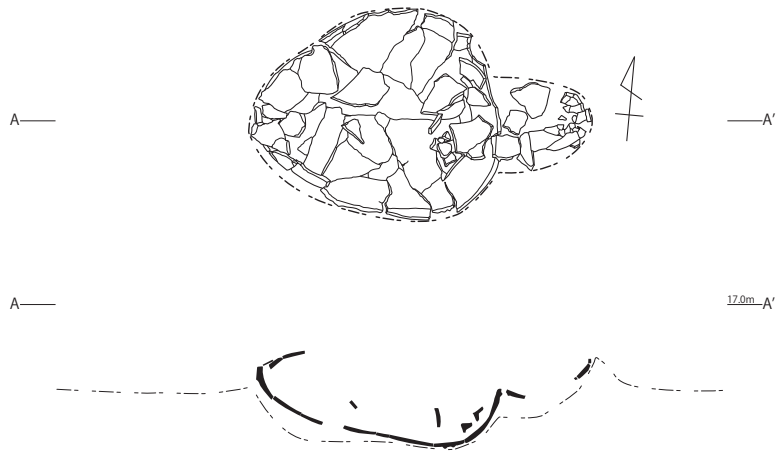


图 35 16区 K11-11 2号甕棺



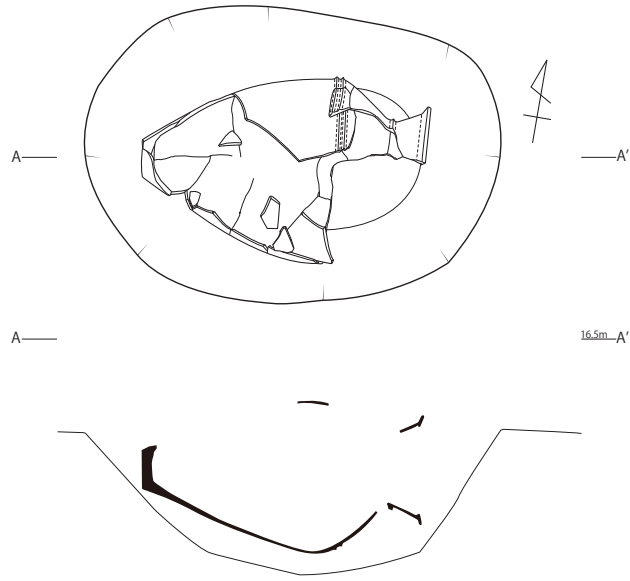


图 36 16 区 K11-11 3 号甕棺

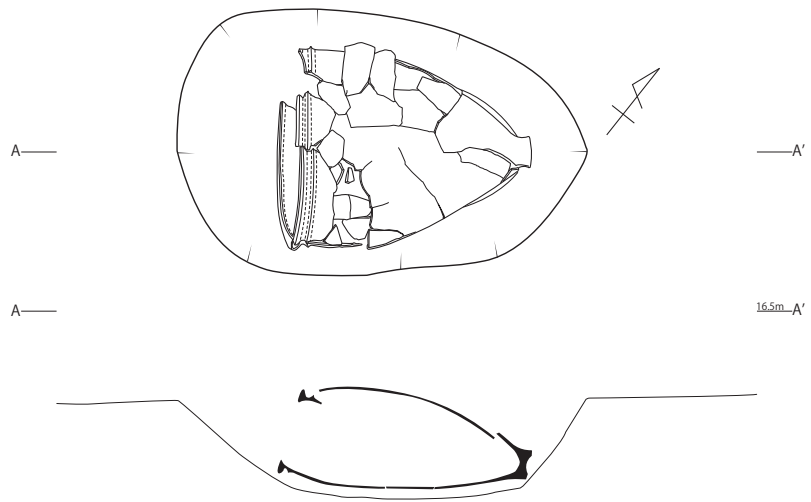


图 37 16 区 K11-11 4 号甕棺



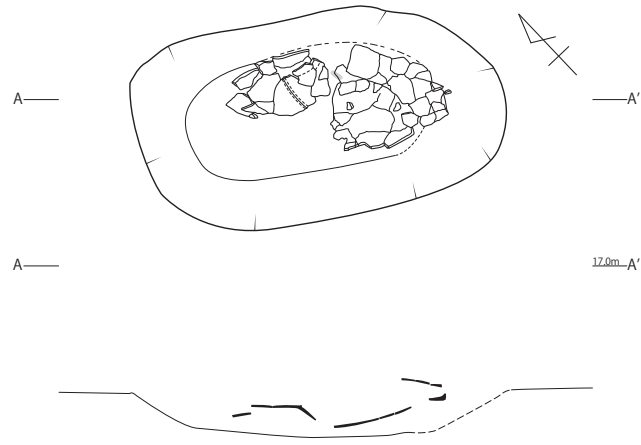


图 38 17区 K10-19 1号甕棺

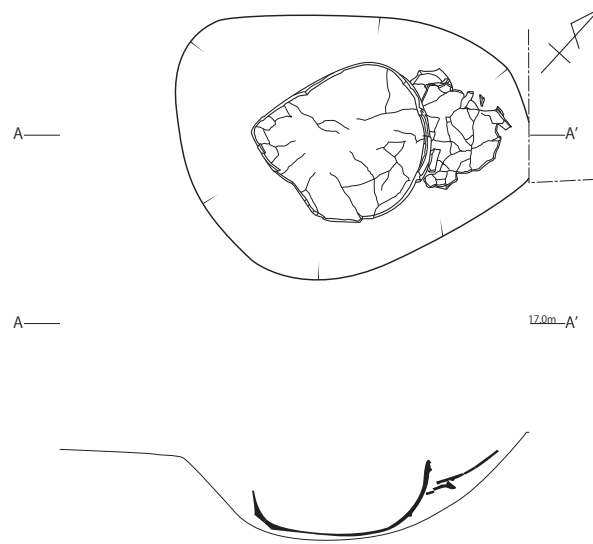


图 39 17区 K10-19 2号甕棺



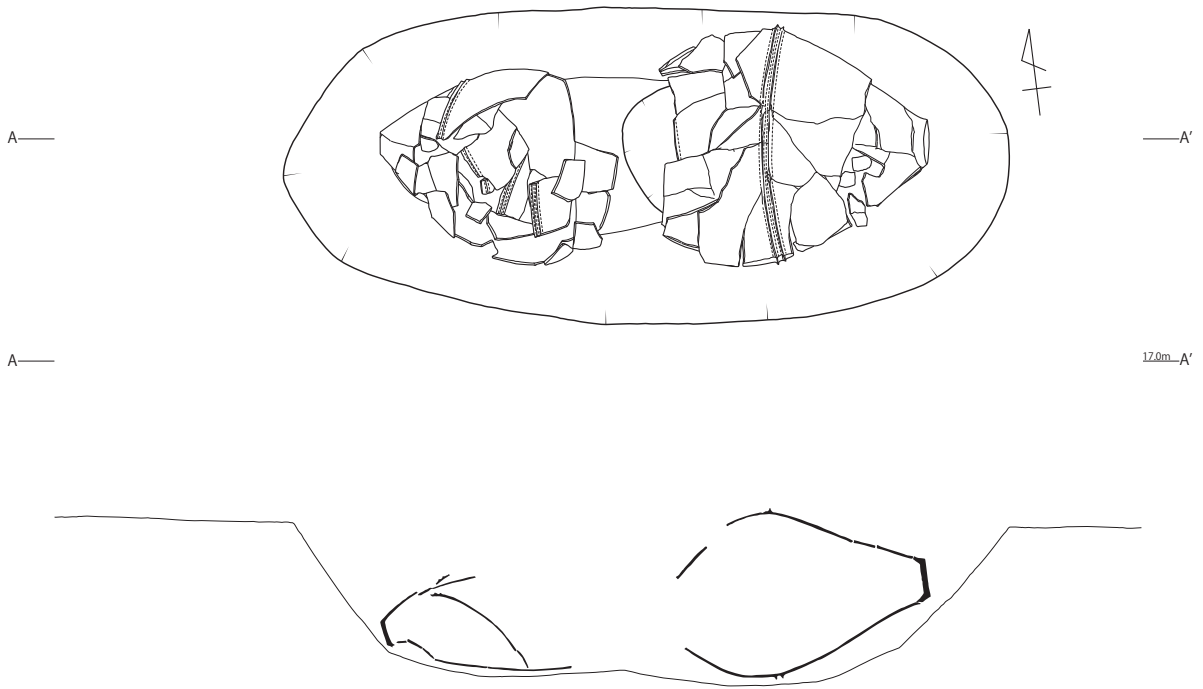


图 40 17 区 K11-16 1 号甕棺

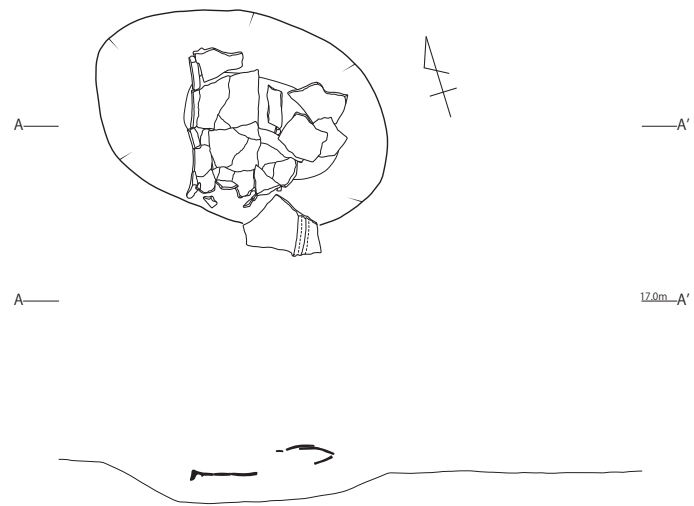


图 41 17 区 K10-24 1 号甕棺



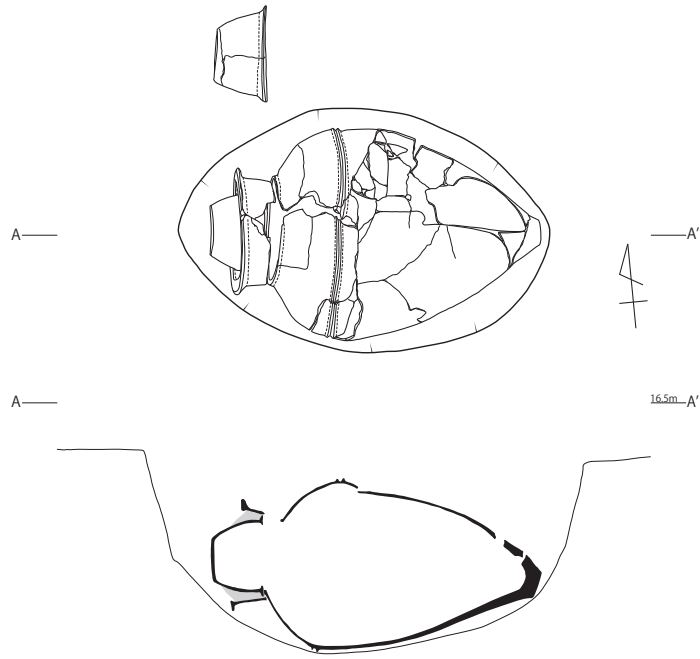


图 42 17 区 K10-25 1 号甕棺

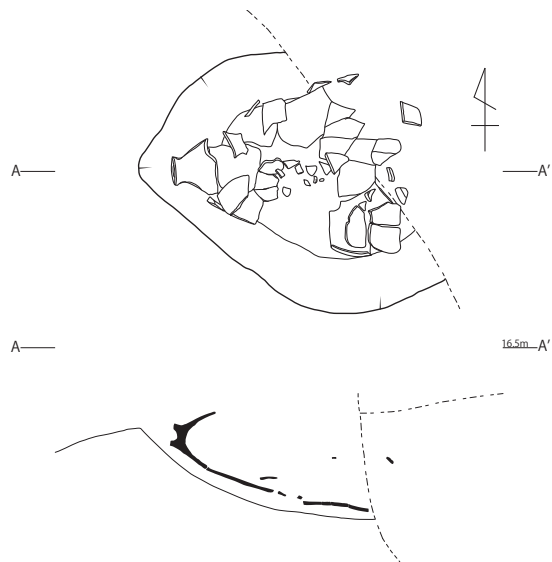


图 43 17 区 K10-25 2 号甕棺



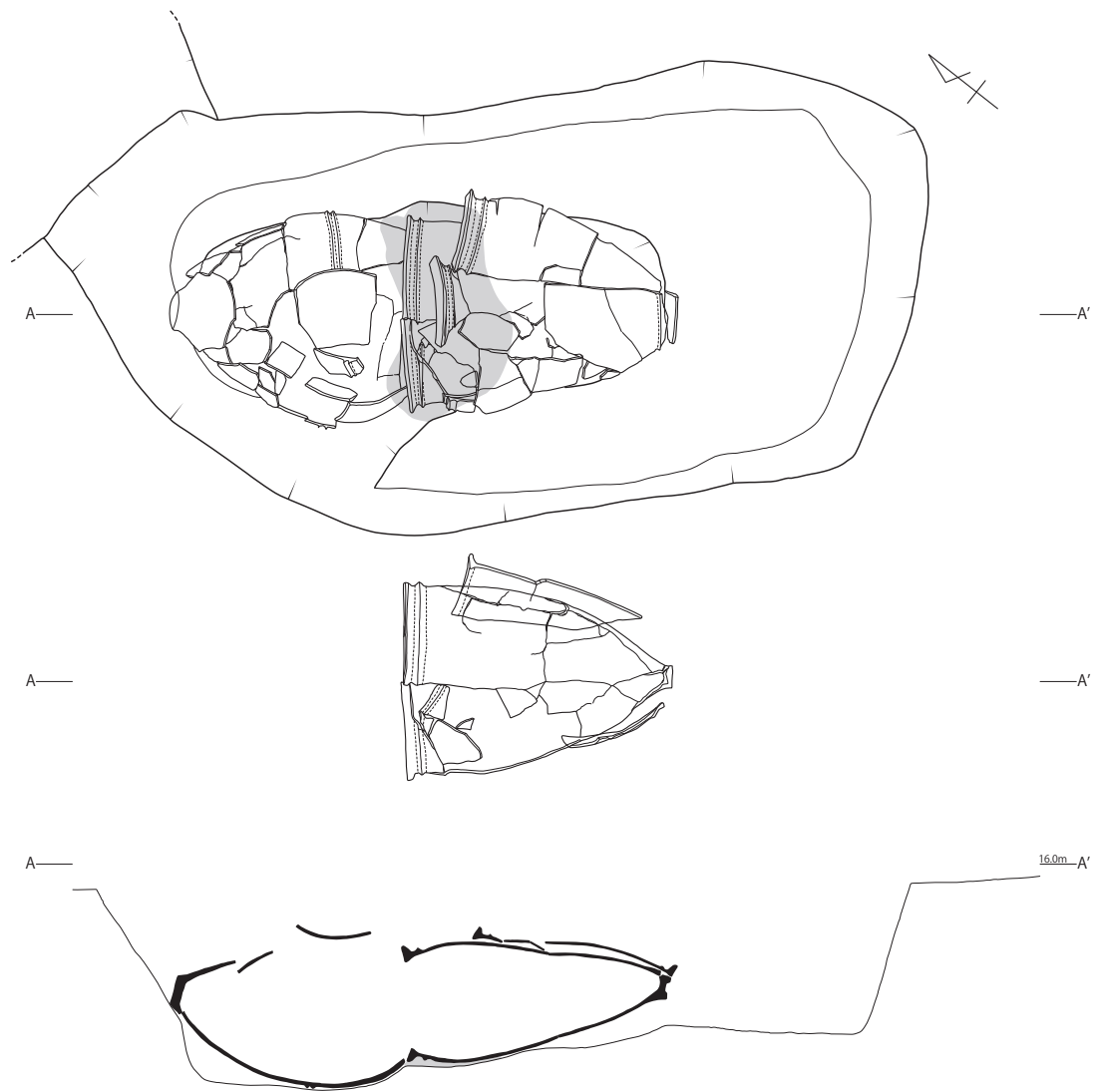


图 44 17区 K10-25 3号甕棺

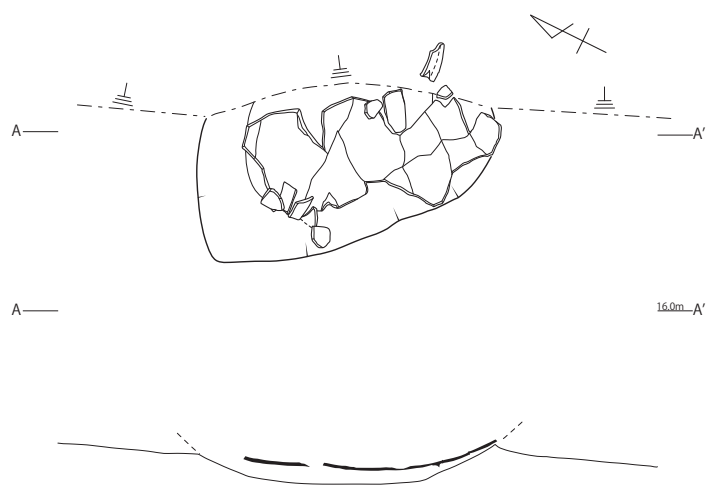


图 45 18区 K10-17 1号甕棺



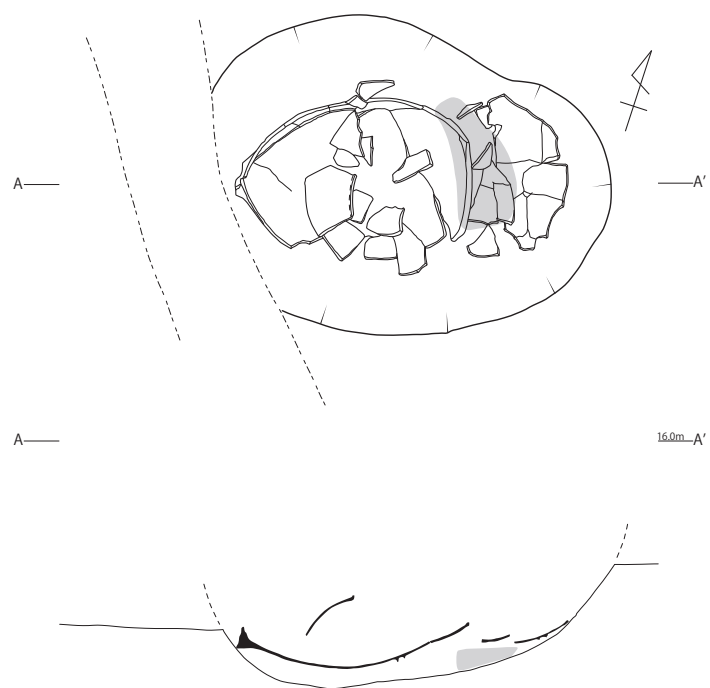


图 46 18区 K10-17 2号甕棺

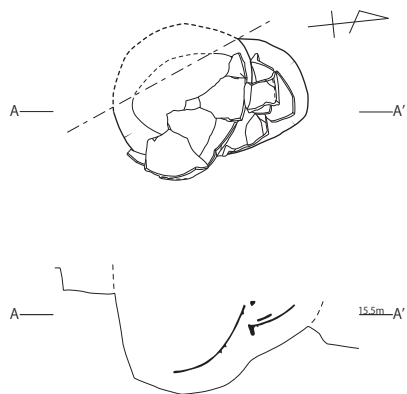


图 47 18区 K10-22 1号甕棺



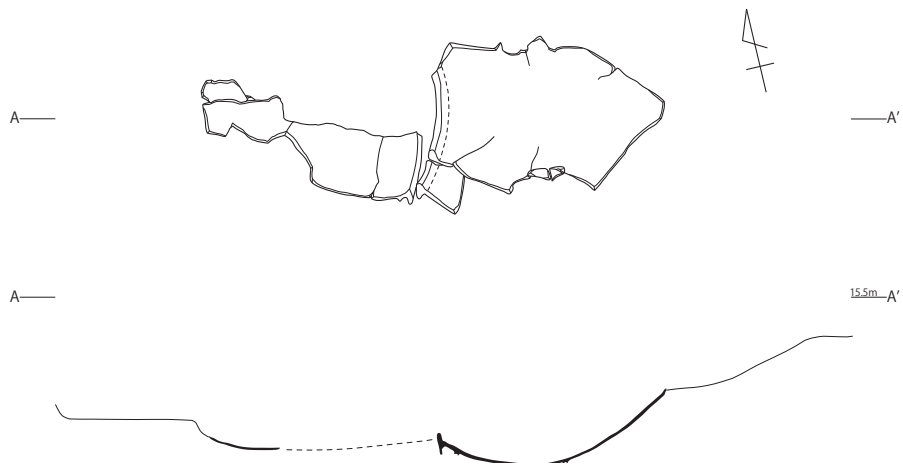


图 48 18区 K10-22 2号甕棺

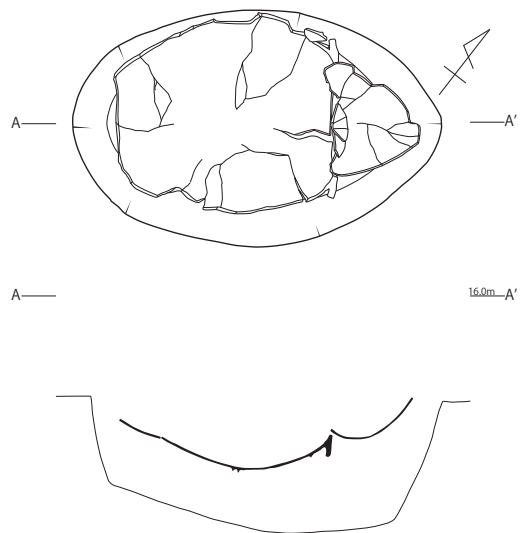


图 49 18区 K10-23 1号甕棺



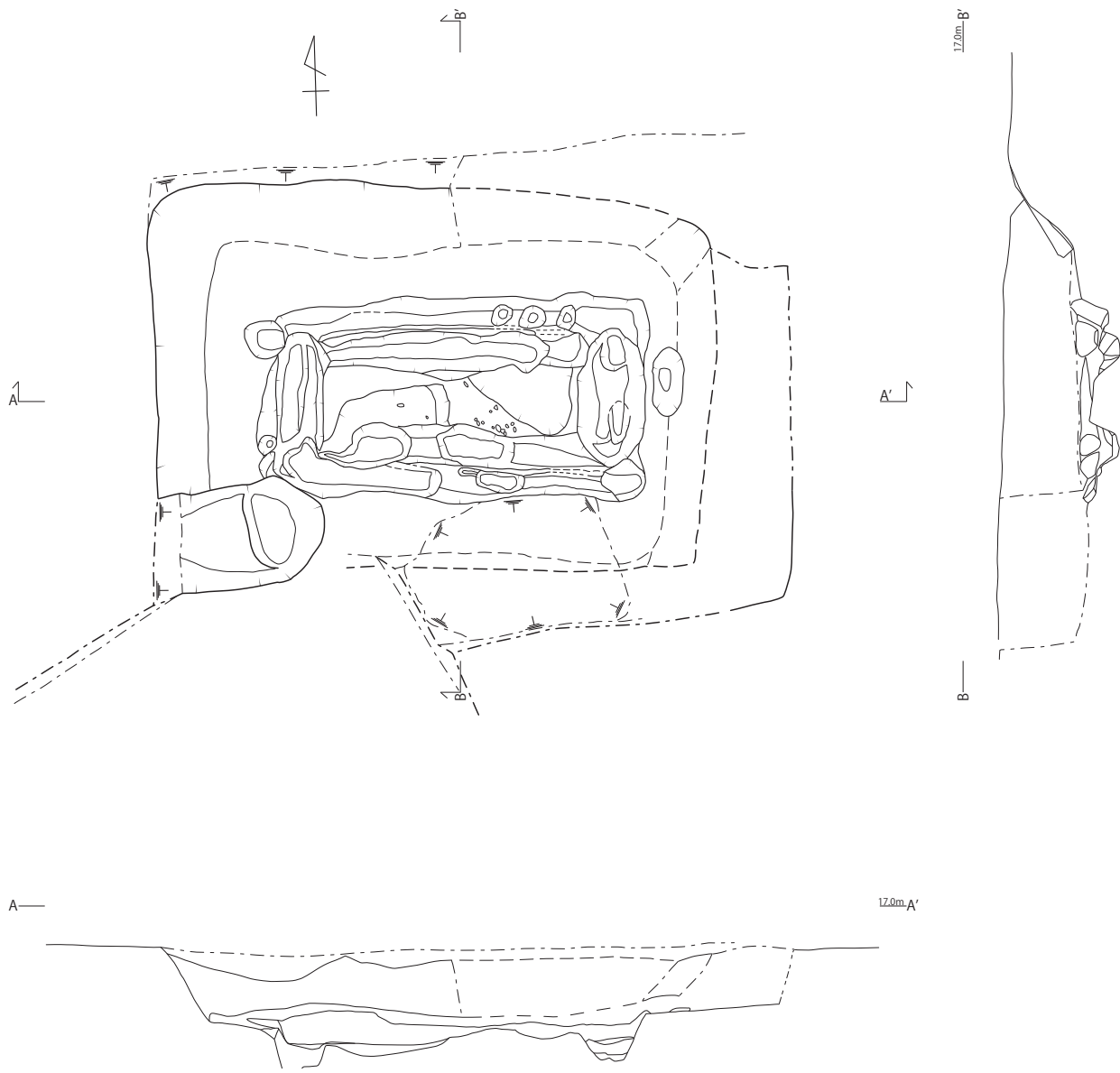
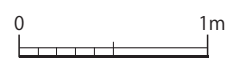


图 50 8-3 区 L10-23 1 号石棺



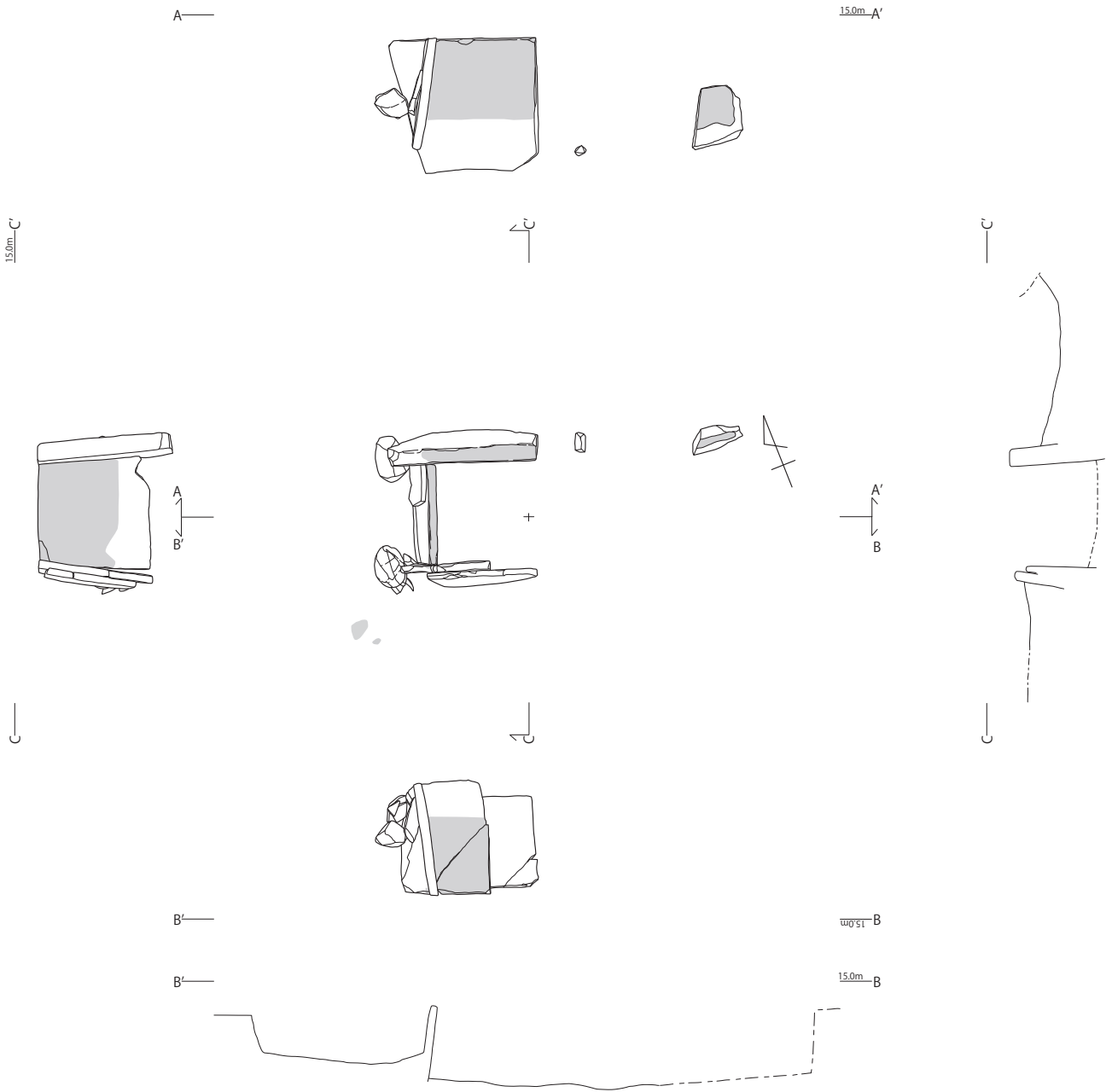


图 51 8-4 区 L9-25 1 号石棺



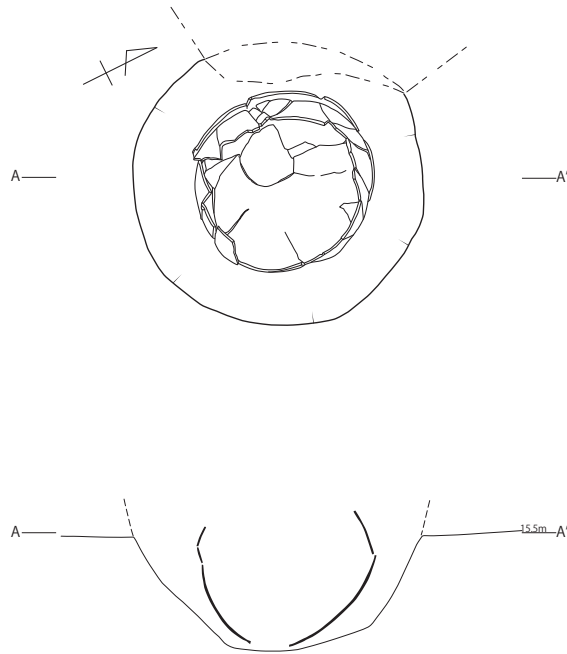


図 52 8-2 区 L9-3 1号埋甕



おわりに

Cエリアにおける調査の概要は、主たる遺構である甕棺の出土状況をしめす図面と写真を報告することとした。他の遺構、遺物を含めて詳細な遺跡の考察の責は、今後数次にわたるであろう本調査報告書の刊行によって果たしたい。

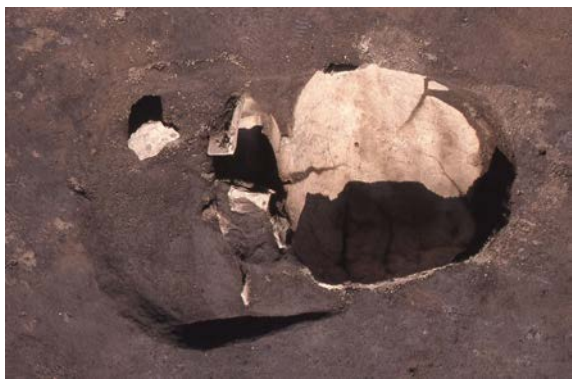


写真1 8-1区1号甕棺(L10-7)



写真2 8-1区2号甕棺(L10-7)



写真3 8-1区3号甕棺(L10-7)



写真4 8-1区1号甕棺(L10-8)



写真5 8-1区2号甕棺(L10-8)

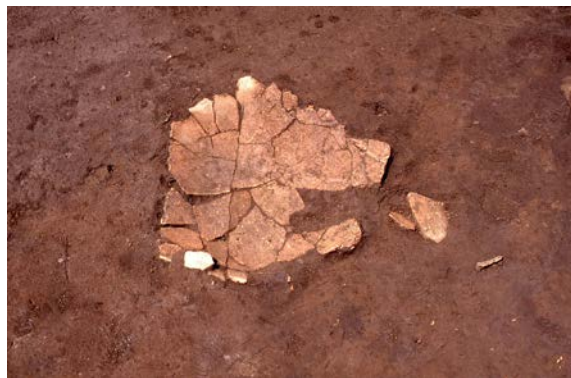


写真6 8-1区1号甕棺(L10-12)



写真7 8-1区2号甕棺(L10-12)



写真8 8-2区1号甕棺(L9-4)

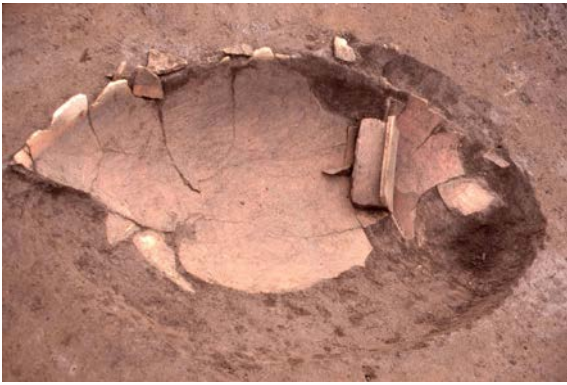


写真9 8-2区1号甕棺(L9-9)



写真10 8-2区2号甕棺(L9-9)



写真11 8-2区1号甕棺(L9-13)



写真12 8-3区1号甕棺(L10-18)



写真13 8-3区2号甕棺(L10-18)



写真14 8-3区1号甕棺(L10-19)



写真15 8-3区1号甕棺(L10-22)

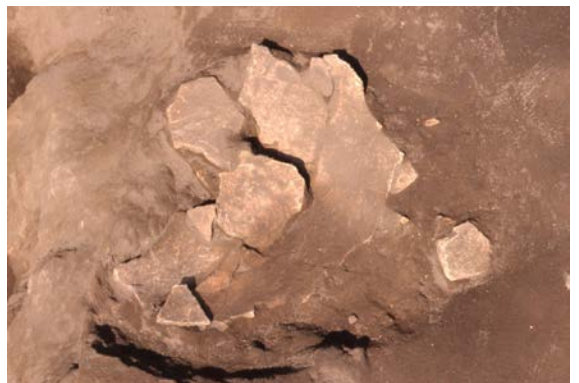


写真16 8-3区2号甕棺(L10-22)



写真17 8-3区1号甕棺(L10-23)



写真18 8-4区1号甕棺(L10-11)



写真19 8-4区1号甕棺(L10-16)



写真20 8-4区1号甕棺(L10-21)

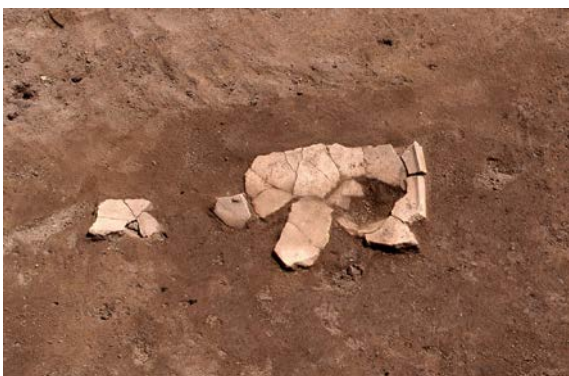


写真21 8-4区2号甕棺(L10-21)



写真22 8-4区3号甕棺(L10-21)



写真23 8-4区4号甕棺(L10-21)



写真24 8-4区1号甕棺(K10-1)



写真25 8-4区1号甕棺(K10-2)



写真26 16区1号甕棺(K10-10)



写真27 16区2号甕棺(K10-10)



写真28 16区3号甕棺(K10-10)



写真29 16区4号甕棺(K10-10)



写真30 16区1号甕棺(K10-15)



写真31 16区2号甕棺(K10-15)



写真32 16区1号甕棺(K10-20)



写真33 16区1号甕棺(K11-6)



写真34 16区1号甕棺(K11-11)



写真35 16区2号甕棺(K11-11)



写真36 16区3号甕棺(K11-11)



写真37 16区4号甕棺(K11-11)



写真38 17区1号甕棺(K10-19)



写真39 17区2号甕棺(K10-20)



写真40 17区1号甕棺(K11-16)



写真41 17区1号甕棺(K10-24)



写真42 17区1号甕棺(K10-25)

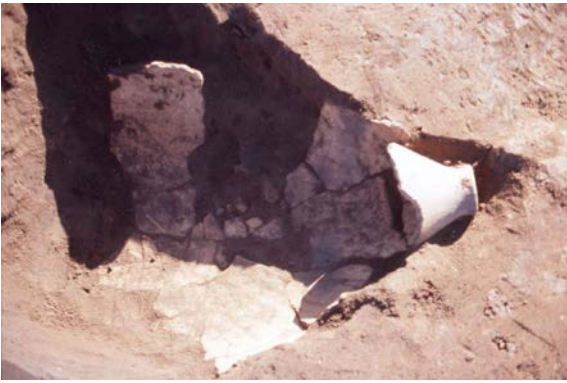


写真43 17区2号甕棺(K10-25)



写真44 17区3号甕棺(K10-25)

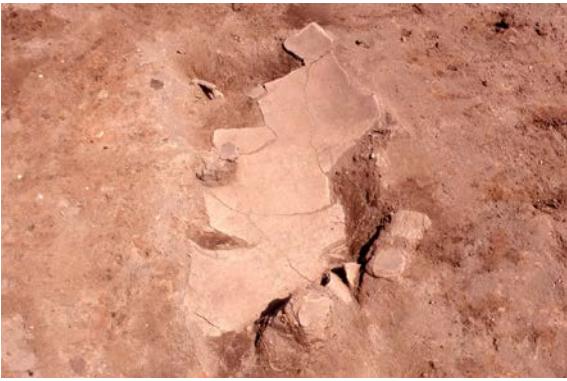


写真45 18区1号甕棺(K10-17)



写真46 18区2号甕棺(K10-17)



写真47 18区1号甕棺(K10-22)



写真48 18区2号甕棺(K10-22)



写真49 18区1号甕棺(K10-23)



写真50 8-3区1号石棺(L10-23)



写真51 8-4区1号石棺(L9-25)



写真52 8-2区1号埋甕(L9-3)

報告書抄録

ふりがな	かしままちとうぶだいちいせきぐん					
書名	嘉島町東部台地遺跡群					
副書名	Cエリアにおける調査概要報告					
シリーズ名	嘉島町文化財調査報告書					
シリーズ番号	第1集					
編著者名	中川裕二					
編集機関	嘉島町教育委員会					
所在地	〒861-3106 熊本県益城郡嘉島町上島 545 TEL:096-237-0058					
発行年月日	平成 27(2015)年 3月					
所収遺跡	所在地	市町村 コード	緯度経度	調査期間	調査面 積	調査原因
いしづかいせき 石塚遺跡	くまもとけんかみましきぐんかしままち 熊本県上益城郡嘉島町 おおあざきたあまざあざつるぎぼる 大字北甘木字字劔原	43442	N32° 44' 35" E 130° 46' 30"	(1)2002年 4月1日 ～ 2003年 3月31日	3605 m ² 1407 m ²	土地区画 整理事業
			N32° 44' 34" E 130° 46' 30"	(2)2007年 4月1日 ～ 2008年 3月31日		
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
(1)東部 8-1区～8-4区	埋葬	縄文時代 弥生時代 古墳時代	甕棺墓 石棺墓 周溝墓	甕棺 弥生土器 土師器 須恵器		
(2)石塚 16, 17, 18区	埋葬	弥生時代 古墳時代	甕棺墓 木棺墓 周溝墓 住居址	甕棺 弥生土器 土師器 須恵器		

嘉島町文化財調査報告 第1集

嘉島町東部台地遺跡群

-Cエリアにおける調査概要報告-

平成27年3月

編集 嘉島町教育委員会

発行 嘉島町教育委員会

〒861-3106 熊本県益城郡嘉島町上島 545

TEL:096-237-0058

印刷 株式会社 河田印刷

〒861-4101 熊本県熊本市南区近見 8丁目 5-105

TEL 096-353-1049
